昭和42年度

能研テスト報告書 第4集

財団法人 能力開発研究所
まえがき

教育的にも社会的にも深刻な問題となっている大学入学問題の解決について、明るい道を開こうとする強い意欲をもって発足した能力開発研究所は、設立以来満5年を経過した。この間、当研究所は、大学教育を受けるにふさわしい適格者を客観的に判断する方法の研究と、テストの実施、および、高校生の進学・就職指導の改善に役立つ資料の提供にとどめてきた。この5か年を顧みて、発足当初から「大学入試は能研テスト一本にする」か、「能研テストで教育の国家統制をねらっている」というような誤解が流布され、また一方では、3年間を実験期間として追跡調査を実施し、その後は能研テストが大学入試にかかわらない」というようなことが一部の人に誤り信じられていたため、思わぬ混乱が起こったのは、遺憾なことであった。このうち、「大学入試は能研テスト一本にする」ということは、これを期待した人はいたかも知れないが、これは当研究所が公式に表明したことはないのである。当研究所としては、これまでの研究調査の結果によって、大学入学者選抜方法は、多くの大学が実行していると思われる大学入試一本の選抜よりも、調査を重視して、これに大学入試・能研テストなど複数の資料を加え用いて選抜するほうが、より妥当・適切であるという見解をとっている。このことについては、全国普通科高等学校長会でも、昭和42年秋の総会において、同様の意見を表明している。また、「能研テストで教育の国家統制をねらっている」という人は、能研テストは共通テストであるから統制の可能性があるというが、当研究所としては、国家統制というようなことは、毛頭意図していません。また、それをすることのできる立場にも立っていない。テスト問題は、大学、高校の関係者によって最も民主的に、かつ慎重な配慮のもとに作成され、また、テストの結果は、すべて客観的かつ公正に処理され、その結果の利用の決定およびその方法は、すべて利用者の自由な判断によってきまるのである。

次に、「3年間を実験期間として追跡調査を実施し、その後は能研テストが大学入試にかかわらない」ということは、中教審の答申に述べられている「少なくとも3年間の準備期間を置くこと」と受けてひとつの考え方であろうが、大学4年の課程を終えた者の学業成績を、能研テストの成績との関係を調査するにあたって、能研テストを受けた年を含めて5年を経過した6年目に、はじめて両者の成績が同時に提供されることを考えるならば、3年間の準備期間では、必ずしも満足でないことは、おのずから明らかなるであろう。現在の時点においては、当研究所としては、追跡調査の中間報告を行なっているところで、最終的な結果を発表し得る段階には到達していないのである。

以上三つの問題については、最近になってようやく、誤解も薄らい、多くの人に正常な認識がなされるようになりつつあることは、喜ばしい限りである。能研テストを利用する大学も、昭和
41年の18から昭和42年は37と増加した。明年は、利用大学の数が層増加することを期待しているのである。

この報告書は、昭和42年度能研テストの実施状況、結果の概要、および、大学の利用状況などを、前回発行の第3集の例にならって集録したほか、追跡調査およびテストの進歩改善をはかるための研究の概要にもふれて、当研究所が着実にかつ真剣に努力している姿の片鱗を示すこととした。なお、近く「能研テストの妥当性に関する研究—追跡調査資料集Ⅰ—」を刊行する予定であるので、詳細についてはこれを参照されたい。

当研究所では、この報告書等に集録した調査研究事項のほかに、研究員によって、高度の基礎研究や統計的研究などを行なっているが、それらのうち、とりあえず第1回分として次の研究項目のものを、「研究紀要Ⅰ」に集録して、昭和42年8月に刊行した。今後、引き続き研究成果を紀要に集録して発行する予定である。

1 アイテム特性関数にもとづくテスト結果の分析
   鞍 島 史 子

2 標準得点の和の妥当性係数
   梶 口 賢 吾

3 正規曲面より切取られた部分および全体の相関係数
   藤 田 恵 国

4 わが国における追跡調査の研究
   同 上

この報告書および研究紀要等が、大学や高等学校、さらにはひろく大学入学問題に関心を持たれるかたがたの理解を高めるために、少しでも役だつならば幸いである。

昭和43年3月

能力開発研究所長 高 木 貞 二
目次

第1部 能研テストの概要とテストの結果 .......................................................... 1

1 能研テストの対象 ................................................................................... 1
2 能研テストの概要 ................................................................................... 1
   (1) 学力テスト ...................................................................................... 1
   (2) 進学適性能力テスト ....................................................................... 14
   (3) 職業適性能力テスト ....................................................................... 16
   (4) テストの改善 ................................................................................... 17
   (5) 追跡調査 ......................................................................................... 19

第2部 テストの実施と管理 ....................................................................... 21

1 実施組織 ............................................................................................... 21
   (1) 都道府県能研支部 ......................................................................... 21
   (2) テスト会場・テスト処理委員会 ..................................................... 22
2 実施経過 ............................................................................................... 22
3 実施状況 ................................................................................................ 23
   (1) 受験申し込み受け付け .................................................................. 23
   (2) 受験申込者数の集計と問題用紙等の発送 ................................... 24
   (3) テストの実施 ................................................................................ 25
   (4) テスト結果の処理・通知 ................................................................ 29
   (5) テストの受験者 ............................................................................. 30

第3部 能研テストの利用 ........................................................................... 36

1 大学における「能研テスト」の利用状況 ................................................... 36
   (1) 「能研テスト」と大学入学者選抜実施要項 ................................... 36
   (2) 「能研テスト」の利用大学 ............................................................. 38
(3) 「能研テスト」の成績を入手する方法……………………………………39
2 その他の利用状況 …………………………………………………………41

【付表】 各テストの課程別・学科別受験者数…………………………………42
第１部 能研テストの概要とテストの結果

「能研テスト」は、高等学校に在学する者とこれに相応する者を対象として、学力テスト、進学適性能力テストおよび職業適応能力テストを行ない、高等学校生徒の進学、就職などの進路の選択、指導に役立てるとともに、大学入学者選抜制度の改善に資することを目的としている。

学力テストは、生徒が平素の学習で身につけた基礎的な学力について、その到達度を測定するものである。進学適性能力テストは、主として進学志望者を対象とし、高等教育への進学適性として必要な能力の測定を行なうことをねらいとしている。職業適応能力テストは、主として就職志望者を対象とし、将来、それぞれの職業生活において健全な適応状態を保つうえに必要な一般的、基礎的な能力の測定をめざしている。したがって、これらのテストの結果は、テストが測定しようとしているねらいと適用範囲に即して評定され、生徒のどの面がすぐれ、どの面が劣っているかを正しくとらえ、進路指導のために有効適切な資料として活用されることが期待される。

このテストは昭和38年度は1回、その後は年2回ずつ実施され、本年度を含めて通算9回をかぞえ、全国共通テストでは従来その例をみない大規模なものになっている。この間に集積された資料は、種々の観点から分析、研究が試みられており、本年度は「研究紀要」「能研テストの妥当性に関する研究—追跡調査資料集Ⅰ」等を刊行して、その成果の一部を公にした。

1 能研テストの対象

学力テストおよび進学適性能力テストは、全日制課程第2学年、第3学年に在学する者とこれに相応する者および大学入学資格検定合格者、高等学校卒業者のうち進学を志望する者を対象とした。

職業適応能力テストは、全日制課程第1学年、第2学年に在学する者とこれに相応する者のうち就職を志望する者を対象とした。なお、ときに希望する場合は全日制課程第3学年在学者とこれに相応する者の受験を認めた。

2 能研テストの概要

(1) 学力テスト

ア 問題作成の基本方針

学力テストの問題は、高等学校全日制課程第2学年と第3学年に在学する者ならびにこれ
に相応する者のうち主として進学志望者を対象として、各教科の学力を客観テストにより測定することを目的として作成した。

イ  問題作成のねらい
テスト問題は、国語・社会・数学・理科・外国語の5教科について、高等学校学習指導要領に示されている目標と内容に基づいて作成し、知識、理解、思考力および技能などをみることができるようにした。（各教科・科目のねらいは「学力テスト問題のねらいと正答」にまとめ別に刊行したので省略する。）

ウ  テスト科目
テスト科目と出題範囲は、表1のとおりである。出題範囲は、テスト実施期日が11月18日、19日であることを考慮した。

| 表1 学力テストの教科・科目と出題範囲 |
|-------------------|-------------------|
| 教 科 | テ ス ト 科 目 | 出 題 範 囲 |
| 国 語 | 国語Ⅰ（2年） | 現代国語および古典乙Ⅰから出題するもの。放送によるテストを含む。 |
| 国語 | 国語Ⅰ（3年） | 現代国語および古典乙Ⅰから出題するもの。 |
| 国語 | 国語Ⅱ（3年） | 現代国語、古典乙Ⅰおよび古典乙Ⅱから出題するもの。 |
| 社 会 | 倫理・社会 | 第3学年用。（ただし、第2学年在学者も希望によっては、このうちから2科目を限度として受験することができる。） |
| | 政治・経済 | 全範囲 |
| | 日本史 | 「(4)国際関係と国際協力」を除く。 |
| | 世界史 | 「(5)国際状勢の推移と日本」および「(6)現代の日本と世界」を除く。 |
| | 地理 | 「(7)二つの世界大戦」の中の「ベルサイユ体制と民族独立運動」およびそれ以降のものを除く。 |
| 数 学 | 数学Ⅰ | 第2学年、第3学年用。（共通問題） |
| | 数学Ⅰ甲 | 第3学年用。数学Ⅰ、数学ⅠBおよび数学Ⅱから出題するもの。 |
| | 数学Ⅰ乙 | 第3学年用。数学Ⅰおよび数学ⅡBから出題するもの。 |
| 理 科 | 物 理 | 第3学年用。（ただし、第2学年在学者も希望によっては、このうちから2科目を限度として受験することができる。） |
| | 生物 | 学習の進度を考慮する。 |
| | 化学 | 全範囲 |
| 外国語 | 英語B（2年） | 放送によるテストを含む。 |
| | 英語B（3年） | 学習の進度を考慮する。 |
| | ドイツ語（3年） |
| | フランス語（3年） |
なお、どの科目も配点は100点満点である。テスト時間は、25ページのテスト時間割に示してある。

== 問題作成の手順

各テスト科目の問題は、前年度の3月から約半年間、大学・高等学校・研究機関・教育委員会・文部省などの各教科・科目の専門家により構成される15の「専門委員会」で慎重な検討を重ねて作成された。

なお、その間、各委員会ごとの調整、審査委員による審査や国語表記の専門家による文章校正を経ている。

テストの結果

テスト科目別の得点分布および小問別正答率は、次のとおりである。
図1 学力テストの教科・科目別得点分布 学力テスト（2年）

図面は、数学科の分布を示したものである。データは、平均（M）と標準偏差（SD）をもとに制作されている。

- 図面1：国語
  - 平均（M）：43.4
  - 標準偏差（SD）：14.3

- 図面2：社会
  - 平均（M）：37.3
  - 標準偏差（SD）：15.4

- 図面3：数学
  - 数学I：32.5
  - 標準偏差（SD）：21.4

- 図面4：理科
  - 生物：33.7
  - 標準偏差（SD）：14.6

- 図面5：外国語
  - 英語B：48.6
  - 標準偏差（SD）：16.5
表2 小問別正答率

<table>
<thead>
<tr>
<th>国語Ⅰ (2年)</th>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>(1)</td>
<td>(1)</td>
<td>81.3%</td>
<td>(3)</td>
<td>54.7%</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(2)</td>
<td>33.7</td>
<td>(5)</td>
<td>(4)</td>
<td>40.0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(3)</td>
<td>74.9</td>
<td>(6)</td>
<td>(7)</td>
<td>25.5</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(4)</td>
<td>66.2</td>
<td>(8)</td>
<td>(9)</td>
<td>53.8</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(5)</td>
<td>35.8</td>
<td>(10)</td>
<td></td>
<td>50.8</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(6)</td>
<td>19.1</td>
<td>(11)</td>
<td></td>
<td>24.6</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(7)</td>
<td>29.5</td>
<td>(12)</td>
<td></td>
<td>16.8</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(8)</td>
<td>11.7</td>
<td>(13)</td>
<td></td>
<td>45.8</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(9)</td>
<td>64.5</td>
<td>(14)</td>
<td></td>
<td>48.2</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(10)</td>
<td>47.0</td>
<td>(15)</td>
<td></td>
<td>57.6</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(11)</td>
<td>60.6</td>
<td>(16)</td>
<td></td>
<td>25.0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(12)</td>
<td>5.6</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>国語Ⅱ (3年)</th>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>(1)</td>
<td>(1)</td>
<td>39.4%</td>
<td>(1)</td>
<td>79.4%</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(2)</td>
<td>79.7</td>
<td>(2)</td>
<td>(3)</td>
<td>35.4</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(3)</td>
<td>28.5</td>
<td>(4)</td>
<td>(5)</td>
<td>75.2</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(4)</td>
<td>86.2</td>
<td>(6)</td>
<td>(7)</td>
<td>33.5</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(5)</td>
<td>65.2</td>
<td>(8)</td>
<td>(9)</td>
<td>60.0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(6)</td>
<td>64.5</td>
<td>(10)</td>
<td>(11)</td>
<td>86.3</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(7)</td>
<td>37.1</td>
<td>(12)</td>
<td></td>
<td>53.1</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(8)</td>
<td>61.3</td>
<td>(13)</td>
<td></td>
<td>72.5</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(9)</td>
<td>32.9</td>
<td>(14)</td>
<td></td>
<td>70.3</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(10)</td>
<td>41.8</td>
<td>(15)</td>
<td></td>
<td>65.2</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(11)</td>
<td>53.8</td>
<td>(16)</td>
<td></td>
<td>84.2</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(12)</td>
<td>90.7</td>
<td>(17)</td>
<td></td>
<td>84.0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(13)</td>
<td>86.4</td>
<td>(18)</td>
<td></td>
<td>43.7</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(14)</td>
<td>78.8</td>
<td>(19)</td>
<td></td>
<td>56.5</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(15)</td>
<td>19.5</td>
<td>(20)</td>
<td>(3)</td>
<td>44.2</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(16)</td>
<td>62.3</td>
<td></td>
<td>(1)</td>
<td>62.1</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>(2)</td>
<td>41.5</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>(3)</td>
<td>82.0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>(4)</td>
<td>41.2</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>国語Ⅰ (3年)</th>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>(1)</td>
<td>(1)</td>
<td>33.4%</td>
<td>(1)</td>
<td>69.6%</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(2)</td>
<td>64.6</td>
<td>(2)</td>
<td>(3)</td>
<td>49.9</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(3)</td>
<td>22.6</td>
<td>(4)</td>
<td>(5)</td>
<td>68.1</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(4)</td>
<td>77.2</td>
<td>(6)</td>
<td>(7)</td>
<td>25.9</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(5)</td>
<td>52.5</td>
<td>(8)</td>
<td>(9)</td>
<td>49.9</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(6)</td>
<td>56.4</td>
<td>(10)</td>
<td>(11)</td>
<td>63.1</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(7)</td>
<td>23.8</td>
<td>(12)</td>
<td>(13)</td>
<td>51.7</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(8)</td>
<td>55.5</td>
<td>(14)</td>
<td>(15)</td>
<td>64.5</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(9)</td>
<td>30.5</td>
<td>(16)</td>
<td>(17)</td>
<td>55.0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(10)</td>
<td>27.7</td>
<td>(18)</td>
<td>(19)</td>
<td>75.0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(11)</td>
<td>49.3</td>
<td>(20)</td>
<td>(21)</td>
<td>58.5</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(12)</td>
<td>86.8</td>
<td>(22)</td>
<td>(23)</td>
<td>59.5</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(13)</td>
<td>82.6</td>
<td>(24)</td>
<td>(25)</td>
<td>73.1</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(14)</td>
<td>75.0</td>
<td>(26)</td>
<td>(27)</td>
<td>50.5</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(15)</td>
<td>19.0</td>
<td>(28)</td>
<td>(29)</td>
<td>42.0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(16)</td>
<td>57.3</td>
<td>(30)</td>
<td>(31)</td>
<td>56.0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(17)</td>
<td>35.2</td>
<td>(32)</td>
<td>(33)</td>
<td>71.0</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>(18)</td>
<td>36.2</td>
<td>(34)</td>
<td>(35)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

倫理・社会

<table>
<thead>
<tr>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>(1)</td>
<td>(1)</td>
<td>58.9%</td>
<td>(4)</td>
<td>26.2%</td>
<td>23.4%</td>
</tr>
<tr>
<td>(2)</td>
<td>63.5</td>
<td>(5)</td>
<td>52.8</td>
<td>(8)</td>
<td>66.0</td>
</tr>
<tr>
<td>(3)</td>
<td>84.2</td>
<td>(6)</td>
<td>74.5</td>
<td>(9)</td>
<td>56.9</td>
</tr>
<tr>
<td>(4)</td>
<td>76.5</td>
<td>(7)</td>
<td>65.8</td>
<td>(10)</td>
<td>41.7</td>
</tr>
<tr>
<td>(5)</td>
<td>33.2</td>
<td>(11)</td>
<td>23.6</td>
<td>(12)</td>
<td>32.8</td>
</tr>
<tr>
<td>(6)</td>
<td>52.9</td>
<td>(13)</td>
<td>52.5</td>
<td>(14)</td>
<td>45.5</td>
</tr>
<tr>
<td>(7)</td>
<td>49.7</td>
<td>(15)</td>
<td>41.0</td>
<td>(16)</td>
<td>80.8</td>
</tr>
<tr>
<td>(8)</td>
<td>62.1</td>
<td>(17)</td>
<td>49.1</td>
<td>(18)</td>
<td>36.3</td>
</tr>
<tr>
<td>(9)</td>
<td>48.7</td>
<td>(19)</td>
<td>36.1</td>
<td>(20)</td>
<td>18.6</td>
</tr>
<tr>
<td>(10)</td>
<td>38.8</td>
<td>(21)</td>
<td>30.8</td>
<td>(22)</td>
<td>37.4</td>
</tr>
<tr>
<td>(11)</td>
<td>46.6</td>
<td>(23)</td>
<td>30.6</td>
<td>(24)</td>
<td>62.8</td>
</tr>
<tr>
<td>(12)</td>
<td>55.6</td>
<td>(25)</td>
<td>19.8</td>
<td>(26)</td>
<td>22.4</td>
</tr>
<tr>
<td>(13)</td>
<td>56.5</td>
<td>(27)</td>
<td>42.4</td>
<td>(28)</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

- 6 -
<table>
<thead>
<tr>
<th>政治・経済</th>
<th>世界史 B</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>大問 小問</td>
<td>正答率</td>
</tr>
<tr>
<td>3年 2年</td>
<td>3年 2年</td>
</tr>
<tr>
<td>(1) (1)</td>
<td>49.3% 35.8%</td>
</tr>
<tr>
<td>(2)</td>
<td>47.0 46.8</td>
</tr>
<tr>
<td>(3)</td>
<td>20.5 24.1</td>
</tr>
<tr>
<td>(4)</td>
<td>31.8 21.9</td>
</tr>
<tr>
<td>(6)</td>
<td>9.0 59.0</td>
</tr>
<tr>
<td>(7)</td>
<td>63.1 43.2</td>
</tr>
<tr>
<td>(7)</td>
<td>28.9 29.1</td>
</tr>
<tr>
<td>(2) (8)</td>
<td>44.4 23.7</td>
</tr>
<tr>
<td>(9)</td>
<td>58.5 56.5</td>
</tr>
<tr>
<td>(10)</td>
<td>50.2 28.4</td>
</tr>
<tr>
<td>(11)</td>
<td>66.9 56.8</td>
</tr>
<tr>
<td>(3) (2)</td>
<td>6.7 3.2</td>
</tr>
<tr>
<td>(3)</td>
<td>48.4 45.3</td>
</tr>
<tr>
<td>(4)</td>
<td>19.9 9.0</td>
</tr>
<tr>
<td>(4)</td>
<td>13.6 5.4</td>
</tr>
<tr>
<td>(6)</td>
<td>21.3 9.7</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>日本史</th>
<th>地理 B</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>大問 小問</td>
<td>正答率</td>
</tr>
<tr>
<td>3年 2年</td>
<td>3年 2年</td>
</tr>
<tr>
<td>(1) (1)</td>
<td>65.7% 48.7%</td>
</tr>
<tr>
<td>(2)</td>
<td>43.6 31.2</td>
</tr>
<tr>
<td>(3)</td>
<td>24.3 9.6</td>
</tr>
<tr>
<td>(4)</td>
<td>57.3 48.0</td>
</tr>
<tr>
<td>(5)</td>
<td>68.6 56.0</td>
</tr>
<tr>
<td>(6)</td>
<td>66.7 52.2</td>
</tr>
<tr>
<td>(7)</td>
<td>76.8 58.2</td>
</tr>
<tr>
<td>(8)</td>
<td>70.3 43.9</td>
</tr>
<tr>
<td>(9)</td>
<td>41.3 27.0</td>
</tr>
<tr>
<td>(10)</td>
<td>62.6 44.5</td>
</tr>
<tr>
<td>(11)</td>
<td>27.8 17.3</td>
</tr>
<tr>
<td>(12)</td>
<td>29.2 19.5</td>
</tr>
<tr>
<td>(2) (3)</td>
<td>58.6 33.1</td>
</tr>
<tr>
<td>(4)</td>
<td>37.4 11.4</td>
</tr>
<tr>
<td>(5)</td>
<td>55.5 39.4</td>
</tr>
<tr>
<td>(6)</td>
<td>63.2 34.5</td>
</tr>
<tr>
<td>(7)</td>
<td>36.5 18.8</td>
</tr>
<tr>
<td>(8)</td>
<td>85.5 70.4</td>
</tr>
<tr>
<td>(9)</td>
<td>22.1 21.3</td>
</tr>
<tr>
<td>(10)</td>
<td>40.8 32.8</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>数学 I</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>大問 小問</td>
</tr>
<tr>
<td>3年 2年</td>
</tr>
<tr>
<td>(1) (1)</td>
</tr>
<tr>
<td>(2)</td>
</tr>
<tr>
<td>(3)</td>
</tr>
<tr>
<td>(4)</td>
</tr>
<tr>
<td>(5)</td>
</tr>
<tr>
<td>(6)</td>
</tr>
<tr>
<td>数学 乙 (3年)</td>
</tr>
<tr>
<td>----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>大問</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>数学 甲 (3年)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>大問</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>生物</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>大問</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>物理 B</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>大問</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>地学</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>大問</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
</tr>
</tbody>
</table>
### 英語 B（2年）

<table>
<thead>
<tr>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>74.6%</td>
<td>5</td>
<td>3</td>
<td>48.0%</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>76.1</td>
<td>31.5</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>18.5</td>
<td>69.7</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>66.6</td>
<td>36.7</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>65.9</td>
<td>59.4</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>43.8</td>
<td>47.6</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>7</td>
<td>65.3</td>
<td>6</td>
<td>67.1</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>45.4</td>
<td>61.2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>55.9</td>
<td>75.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>45.9</td>
<td>58.5</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>67.1</td>
<td>32.4</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>2</td>
<td>26.8</td>
<td>4</td>
<td>77.5</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>45.8</td>
<td>60.9</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>29.1</td>
<td>22.8</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>12.3</td>
<td>32.6</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>56.6</td>
<td>59.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>7</td>
<td>26.1</td>
<td>8</td>
<td>21.8</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>42.9</td>
<td>39.1</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>27.8</td>
<td>71.4</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>31.9</td>
<td>50.9</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>22</td>
<td>52.7</td>
<td>87.8</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### ドイツ語（3年）

<table>
<thead>
<tr>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>57.3%</td>
<td>7</td>
<td>3</td>
<td>31.7%</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>15.9</td>
<td>29.3</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>51.2</td>
<td>37.8</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>47.6</td>
<td>34.1</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>48.8</td>
<td>37.8</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>15.9</td>
<td>73.2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>7</td>
<td>63.4</td>
<td>7</td>
<td>31.7</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>14.6</td>
<td>22.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>9</td>
<td>37.8</td>
<td>9</td>
<td>62.2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>41.5</td>
<td>76.8</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>50.0</td>
<td>74.4</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>34.1</td>
<td>85.4</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>39.0</td>
<td>65.9</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>20.7</td>
<td>12.2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>24.4</td>
<td>51.2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>43.9</td>
<td>41.5</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>7</td>
<td>61.0</td>
<td>11</td>
<td>9.8</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>69.5</td>
<td>18.3</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>43.9</td>
<td>54.9</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>63.4</td>
<td>17.1</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### フランス語（3年）

<table>
<thead>
<tr>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
<th>大問</th>
<th>小問</th>
<th>正答率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>90.5%</td>
<td>6</td>
<td>2</td>
<td>83.3%</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>78.6</td>
<td>31.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>81.0</td>
<td>14.3</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>57.1</td>
<td>19.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>92.9</td>
<td>57.1</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>66.7</td>
<td>40.5</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>7</td>
<td>50.0</td>
<td>7</td>
<td>52.4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>64.3</td>
<td>40.5</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>61.9</td>
<td>7.1</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>31.0</td>
<td>33.3</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>66.7</td>
<td>28.6</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>33.3</td>
<td>28.6</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>26.2</td>
<td>66.7</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>47.6</td>
<td>16.7</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>78.6</td>
<td>16.7</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>47.6</td>
<td>19.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>73.8</td>
<td>47.6</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>47.6</td>
<td>28.6</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>76.2</td>
<td>50.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>76.2</td>
<td>19.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
テストの結果は、「個人成績票」によって、受験者と在学高等学校に通知した。また、結果資料の一部として「学力テスト結果資料」を作成し、受験者のあった高等学校、能研支部等に配布した。この結果資料は、受験者が、教科目別別の全国分布・順位から各自の相対的な学力水準を知ったり、進路別順位、大学学部別の順位から志望する進路の中での位置を読みとることができるようにしたものである。「個人成績票」「学力テスト結果資料」の内容は、次のとおりである。

| 「個人成績票」 | 学力テスト（２年） | ① 受験科目的得点とその志望進路（4年制大学文科、同理科、短期大学、その他）における順位
 | | | ② 受験科目的平均得点
 | | | ③ 所定の科目（国語Ⅰ、数学Ⅰ、英語Ｂ）の平均得点とその志望進路における順位
 | | 学力テスト（3年） | ① 受験科目的得点
 | | | ② 所定科目（志望大学学部の入試科目）の得点の志望大学学部における順位
 | | | ③ 受験科目的平均得点
 | | | ④ 所定科目の平均得点とその志望大学学部における順位
 | 「学力テスト
結果資料」 | 学力テスト（2年） | ① 教科・科目別の得点分布
 | | | ② 教科・科目別の得点によるパーセンタイル順位
 | | | ③ 進路別の平均得点によるパーセンタイル順位
 | | | ④ 進路別の教科・科目における平均、標準偏差、最高点および最低点
 | | 学力テスト（3年） | ① 教科・科目別の得点分布
 | | | ② 教科・科目別の得点によるパーセンタイル順位
 | | | ③ 大学学部別の平均得点による度数分布
表 3 学力テスト（2年）のテスト結果  進路別

<table>
<thead>
<tr>
<th>教科・科目</th>
<th>国語</th>
<th>数学</th>
<th>外国語</th>
<th>倫理</th>
<th>政治</th>
<th>日本史</th>
<th>世界史B</th>
<th>地理B</th>
<th>物理B</th>
<th>化学B</th>
<th>生物</th>
<th>地学</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国語I</td>
<td>33930</td>
<td>30253</td>
<td>33708</td>
<td>286</td>
<td>129</td>
<td>430</td>
<td>712</td>
<td>1927</td>
<td>93</td>
<td>272</td>
<td>1517</td>
<td>145</td>
</tr>
<tr>
<td>数学I</td>
<td>33930</td>
<td>30253</td>
<td>33708</td>
<td>286</td>
<td>129</td>
<td>430</td>
<td>712</td>
<td>1927</td>
<td>93</td>
<td>272</td>
<td>1517</td>
<td>145</td>
</tr>
<tr>
<td>外国語I</td>
<td>33930</td>
<td>30253</td>
<td>33708</td>
<td>286</td>
<td>129</td>
<td>430</td>
<td>712</td>
<td>1927</td>
<td>93</td>
<td>272</td>
<td>1517</td>
<td>145</td>
</tr>
<tr>
<td>4年制大学</td>
<td>受験者実数</td>
<td>33930</td>
<td>30253</td>
<td>33708</td>
<td>286</td>
<td>129</td>
<td>430</td>
<td>712</td>
<td>1927</td>
<td>93</td>
<td>272</td>
<td>1517</td>
</tr>
<tr>
<td>文科系</td>
<td>平均</td>
<td>44.8</td>
<td>30.8</td>
<td>50.3</td>
<td>39.1</td>
<td>28.7</td>
<td>33.1</td>
<td>19.9</td>
<td>36.0</td>
<td>29.0</td>
<td>29.9</td>
<td>31.8</td>
</tr>
<tr>
<td>標準偏差</td>
<td>14.4</td>
<td>19.6</td>
<td>16.5</td>
<td>13.9</td>
<td>12.1</td>
<td>12.5</td>
<td>10.9</td>
<td>15.2</td>
<td>11.4</td>
<td>14.4</td>
<td>13.8</td>
<td>10.7</td>
</tr>
<tr>
<td>最高点，最低点</td>
<td>100, 0</td>
<td>100, 0</td>
<td>100, 0</td>
<td>80, 8</td>
<td>66, 6</td>
<td>84, 6</td>
<td>87, 0</td>
<td>93, 0</td>
<td>53, 0</td>
<td>90, 0</td>
<td>88, 4</td>
<td>60, 0</td>
</tr>
<tr>
<td>4年制大学</td>
<td>受験者実数</td>
<td>25760</td>
<td>25122</td>
<td>26000</td>
<td>150</td>
<td>95</td>
<td>129</td>
<td>332</td>
<td>1126</td>
<td>853</td>
<td>1099</td>
<td>1161</td>
</tr>
<tr>
<td>理科系</td>
<td>平均</td>
<td>45.0</td>
<td>41.9</td>
<td>52.3</td>
<td>45.1</td>
<td>31.6</td>
<td>34.6</td>
<td>19.1</td>
<td>42.5</td>
<td>31.1</td>
<td>34.4</td>
<td>38.9</td>
</tr>
<tr>
<td>標準偏差</td>
<td>14.3</td>
<td>22.6</td>
<td>17.1</td>
<td>16.2</td>
<td>11.7</td>
<td>12.6</td>
<td>9.5</td>
<td>15.9</td>
<td>11.8</td>
<td>15.4</td>
<td>15.5</td>
<td>15.9</td>
</tr>
<tr>
<td>最高点，最低点</td>
<td>100, 0</td>
<td>100, 0</td>
<td>100, 0</td>
<td>80, 0</td>
<td>69, 7</td>
<td>76, 10</td>
<td>70, 0</td>
<td>87, 0</td>
<td>75, 0</td>
<td>95, 0</td>
<td>84, 8</td>
<td>85, 5</td>
</tr>
<tr>
<td>短期大学</td>
<td>受験者実数</td>
<td>8052</td>
<td>6937</td>
<td>7843</td>
<td>36</td>
<td>11</td>
<td>53</td>
<td>119</td>
<td>317</td>
<td>6</td>
<td>29</td>
<td>316</td>
</tr>
<tr>
<td>(00003)</td>
<td>平均</td>
<td>38.6</td>
<td>19.2</td>
<td>40.2</td>
<td>32.9</td>
<td>21.8</td>
<td>24.9</td>
<td>15.8</td>
<td>28.4</td>
<td>32.5</td>
<td>25.0</td>
<td>26.4</td>
</tr>
<tr>
<td>標準偏差</td>
<td>12.5</td>
<td>14.5</td>
<td>11.8</td>
<td>10.0</td>
<td>8.2</td>
<td>9.7</td>
<td>6.8</td>
<td>10.7</td>
<td>12.3</td>
<td>11.4</td>
<td>10.9</td>
<td>8.6</td>
</tr>
<tr>
<td>最高点，最低点</td>
<td>84, 0</td>
<td>86, 0</td>
<td>89, 0</td>
<td>52, 12</td>
<td>42, 12</td>
<td>56, 6</td>
<td>45, 4</td>
<td>67, 3</td>
<td>42, 6</td>
<td>55, 5</td>
<td>68, 4</td>
<td>35, 5</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>受験者実数</td>
<td>13431</td>
<td>11966</td>
<td>13277</td>
<td>103</td>
<td>42</td>
<td>70</td>
<td>166</td>
<td>578</td>
<td>105</td>
<td>226</td>
<td>612</td>
</tr>
<tr>
<td>(00004)</td>
<td>平均</td>
<td>40.0</td>
<td>25.1</td>
<td>42.3</td>
<td>39.9</td>
<td>29.8</td>
<td>29.7</td>
<td>17.6</td>
<td>36.7</td>
<td>28.0</td>
<td>31.0</td>
<td>32.3</td>
</tr>
<tr>
<td>標準偏差</td>
<td>13.6</td>
<td>17.9</td>
<td>14.2</td>
<td>13.8</td>
<td>9.4</td>
<td>11.2</td>
<td>8.8</td>
<td>14.0</td>
<td>11.5</td>
<td>13.3</td>
<td>13.2</td>
<td>11.7</td>
</tr>
<tr>
<td>最高点，最低点</td>
<td>97, 0</td>
<td>100, 0</td>
<td>100, 0</td>
<td>80, 8</td>
<td>52, 9</td>
<td>58, 2</td>
<td>72, 3</td>
<td>80, 6</td>
<td>54, 0</td>
<td>75, 5</td>
<td>72, 4</td>
<td>55, 0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）（  ）の中の数字は進路番号である。
### 表4 学歴テスト（3年）のテスト結果 — 4年制大学・短期大学—

<table>
<thead>
<tr>
<th>得点</th>
<th>国語</th>
<th>論理</th>
<th>社会</th>
<th>政治</th>
<th>数学</th>
<th>物理</th>
<th>化学</th>
<th>生物</th>
<th>地学</th>
<th>外国語</th>
<th>B</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>100</td>
<td>4</td>
<td>1</td>
<td>4</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>38</td>
<td>38</td>
<td>1</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>97</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>13</td>
<td>6</td>
<td>1</td>
<td>17</td>
<td>18</td>
<td>99</td>
<td>1</td>
<td>74</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>90</td>
<td>16</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>36</td>
<td>13</td>
<td>20</td>
<td>19</td>
<td>1</td>
<td>47</td>
<td>7</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>89</td>
<td>27</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>100</td>
<td>20</td>
<td>19</td>
<td>1</td>
<td>47</td>
<td>7</td>
<td>221</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>88</td>
<td>264</td>
<td>74</td>
<td>2</td>
<td>9</td>
<td>246</td>
<td>31</td>
<td>42</td>
<td>95</td>
<td>172</td>
<td>6</td>
<td>386</td>
</tr>
<tr>
<td>81</td>
<td>630</td>
<td>165</td>
<td>9</td>
<td>21</td>
<td>447</td>
<td>42</td>
<td>98</td>
<td>1</td>
<td>165</td>
<td>187</td>
<td>30</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>77</td>
<td>1198</td>
<td>278</td>
<td>7</td>
<td>32</td>
<td>621</td>
<td>73</td>
<td>152</td>
<td>7</td>
<td>233</td>
<td>93</td>
<td>32</td>
</tr>
<tr>
<td>73</td>
<td>1911</td>
<td>302</td>
<td>13</td>
<td>38</td>
<td>904</td>
<td>97</td>
<td>215</td>
<td>12</td>
<td>274</td>
<td>404</td>
<td>50</td>
</tr>
<tr>
<td>69</td>
<td>2586</td>
<td>426</td>
<td>19</td>
<td>42</td>
<td>1092</td>
<td>153</td>
<td>241</td>
<td>9</td>
<td>340</td>
<td>244</td>
<td>136</td>
</tr>
<tr>
<td>65</td>
<td>3246</td>
<td>404</td>
<td>22</td>
<td>69</td>
<td>1247</td>
<td>216</td>
<td>321</td>
<td>14</td>
<td>412</td>
<td>303</td>
<td>176</td>
</tr>
<tr>
<td>61</td>
<td>3717</td>
<td>351</td>
<td>34</td>
<td>118</td>
<td>1369</td>
<td>252</td>
<td>354</td>
<td>36</td>
<td>482</td>
<td>583</td>
<td>361</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>57</td>
<td>3913</td>
<td>314</td>
<td>43</td>
<td>147</td>
<td>1546</td>
<td>357</td>
<td>324</td>
<td>39</td>
<td>540</td>
<td>304</td>
<td>528</td>
</tr>
<tr>
<td>53</td>
<td>3906</td>
<td>231</td>
<td>43</td>
<td>156</td>
<td>1527</td>
<td>445</td>
<td>308</td>
<td>48</td>
<td>581</td>
<td>689</td>
<td>748</td>
</tr>
<tr>
<td>49</td>
<td>3533</td>
<td>161</td>
<td>42</td>
<td>238</td>
<td>1451</td>
<td>567</td>
<td>416</td>
<td>50</td>
<td>635</td>
<td>775</td>
<td>241</td>
</tr>
<tr>
<td>45</td>
<td>3165</td>
<td>148</td>
<td>41</td>
<td>257</td>
<td>1420</td>
<td>670</td>
<td>393</td>
<td>82</td>
<td>711</td>
<td>468</td>
<td>1378</td>
</tr>
<tr>
<td>41</td>
<td>2734</td>
<td>86</td>
<td>40</td>
<td>288</td>
<td>1370</td>
<td>747</td>
<td>379</td>
<td>101</td>
<td>811</td>
<td>699</td>
<td>231</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>37</td>
<td>2237</td>
<td>76</td>
<td>29</td>
<td>294</td>
<td>1238</td>
<td>931</td>
<td>353</td>
<td>101</td>
<td>811</td>
<td>699</td>
<td>231</td>
</tr>
<tr>
<td>33</td>
<td>1754</td>
<td>55</td>
<td>24</td>
<td>280</td>
<td>1162</td>
<td>905</td>
<td>298</td>
<td>107</td>
<td>769</td>
<td>746</td>
<td>1890</td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td>1119</td>
<td>20</td>
<td>16</td>
<td>253</td>
<td>1029</td>
<td>936</td>
<td>308</td>
<td>111</td>
<td>824</td>
<td>1503</td>
<td>1558</td>
</tr>
<tr>
<td>25</td>
<td>788</td>
<td>24</td>
<td>23</td>
<td>268</td>
<td>878</td>
<td>977</td>
<td>246</td>
<td>117</td>
<td>771</td>
<td>430</td>
<td>124</td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>403</td>
<td>14</td>
<td>14</td>
<td>237</td>
<td>651</td>
<td>964</td>
<td>179</td>
<td>97</td>
<td>793</td>
<td>1105</td>
<td>1222</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>224</td>
<td>5</td>
<td>6</td>
<td>115</td>
<td>388</td>
<td>899</td>
<td>111</td>
<td>128</td>
<td>770</td>
<td>1379</td>
<td>666</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>88</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>76</td>
<td>201</td>
<td>744</td>
<td>72</td>
<td>122</td>
<td>654</td>
<td>138</td>
<td>21</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>36</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>56</td>
<td>77</td>
<td>521</td>
<td>48</td>
<td>118</td>
<td>562</td>
<td>916</td>
<td>328</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>7</td>
<td>8</td>
<td>23</td>
<td>154</td>
<td>8</td>
<td>63</td>
<td>373</td>
<td>623</td>
<td>76</td>
<td>70</td>
<td>36</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>5</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>55</td>
<td>2</td>
<td>38</td>
<td>215</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>受験者実数</th>
<th>37582</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>平 均</td>
<td>54.62</td>
</tr>
<tr>
<td>標 準 偏 差</td>
<td>14.50</td>
</tr>
</tbody>
</table>

---
<table>
<thead>
<tr>
<th>得 点</th>
<th>国 言</th>
<th>社 会</th>
<th>数 学</th>
<th>理 科</th>
<th>外国語</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>I</td>
<td>II</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>100</td>
<td>1</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>97</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>93</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>89</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>85</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>81</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>77 ~ 80</td>
<td>94</td>
<td>5</td>
<td>34</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>73 ~ 76</td>
<td>205</td>
<td>5</td>
<td>38</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>69 ~ 72</td>
<td>409</td>
<td>5</td>
<td>92</td>
<td>1</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>65 ~ 68</td>
<td>630</td>
<td>7</td>
<td>108</td>
<td>2</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>61 ~ 64</td>
<td>885</td>
<td>7</td>
<td>196</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>57 ~ 60</td>
<td>1080</td>
<td>10</td>
<td>25</td>
<td>22</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>53 ~ 56</td>
<td>1325</td>
<td>10</td>
<td>30</td>
<td>22</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>49 ~ 52</td>
<td>1381</td>
<td>10</td>
<td>34</td>
<td>18</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>45 ~ 48</td>
<td>1391</td>
<td>12</td>
<td>36</td>
<td>22</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>41 ~ 44</td>
<td>1324</td>
<td>7</td>
<td>35</td>
<td>22</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>37 ~ 40</td>
<td>1149</td>
<td>16</td>
<td>28</td>
<td>18</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>33 ~ 36</td>
<td>871</td>
<td>5</td>
<td>44</td>
<td>22</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>29 ~ 32</td>
<td>652</td>
<td>4</td>
<td>33</td>
<td>22</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>25 ~ 28</td>
<td>408</td>
<td>1</td>
<td>35</td>
<td>18</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>21 ~ 24</td>
<td>228</td>
<td>2</td>
<td>18</td>
<td>18</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>17 ~ 20</td>
<td>108</td>
<td>3</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>13 ~ 16</td>
<td>38</td>
<td>8</td>
<td>21</td>
<td>11</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>9 ~ 12</td>
<td>18</td>
<td>2</td>
<td>21</td>
<td>11</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>5 ~ 8</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>1 ~ 4</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

受験者実数 12273人
平均 48.40
標準偏差 14.07

<p>| | | | | | |</p>
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>103</td>
<td>469</td>
<td>5753</td>
<td>297</td>
<td>882</td>
<td>3524</td>
</tr>
<tr>
<td>48.40</td>
<td>49.83</td>
<td>42.24</td>
<td>31.23</td>
<td>38.68</td>
<td>31.79</td>
</tr>
<tr>
<td>13.16</td>
<td>14.07</td>
<td>14.18</td>
<td>11.55</td>
<td>15.24</td>
<td>15.53</td>
</tr>
<tr>
<td>11.88</td>
<td>15.15</td>
<td>12.51</td>
<td>9.60</td>
<td>13.50</td>
<td>23.75</td>
</tr>
<tr>
<td>37.87</td>
<td>37.87</td>
<td>23.75</td>
<td>13.50</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

表 5 短期大学受験者（受験者実数 12273人）
(2) 進学適性能力テスト

ア テストのねらいと内容

高等学校生徒が大学へ進学して、高い水準の教育を受けるのに必要な知的能力のうち、一般的であり、また、中核的な役割をなっているとみなされる言語的推理能力と非言語的推理能力をと測定する。

このテストは、第Ⅰ部（進適Ⅰ）と第Ⅱ部（進適Ⅱ）に分かれている。

第Ⅰ部の言語的推理能力のテストでは、いくつかのことばの類似点や相異点をみきわめて、ことばどうしの意味の関係を的確にとらえる力や、文章で述べられたことがらや問題の中において新しい考え方を正しく読みとり、それを応用してものを考えていく力をを測る。第Ⅱ部の非言語的推理能力のテストでは、主として記号や数字などで構成される課題におけるとりくんでこれをよく理解したうえで、推理によって解決する能力を測る。問題は数理的な課題や図形を利用して考える課題、いくつかの抽象的な条件を考慮して解かねばならない課題などを含んでいる。

このテストの問題は、中学校において修得された程度の知識を基にして構成されている。高等学校の特定の科目の知識を必要とするものではない。また、練習によって、テストの成績が影響されることはない。

イ 問題の形式

5肢選択形式による客観テストであり、各問は小問甲・乙の対問から成る。そして、各問の甲・乙両方に正しく答えたときにのみ正答として得点を与えられる。したがって、偶然によって正答を得る確率は、\[ \frac{1}{5} \times \frac{1}{5} = \frac{1}{25} \] というひじょうに小さい値になる。

ウ テストの作成経過

進学適性能力テストの基本方針を検討し、これに基づいて問題を作成するために、心理学専門家等を含む「専門委員会」が設けられた。なお、問題の素材の提供にあたる「問題原案作成委員会」を設け、大学関係者若干名を委嘱した。

「専門委員会」は、前年度の10月に発足し、その後、本年度の5月までとの間、約15回の会議が重ねられた。その間、小規模の予備テストを実施するなどして、問題案の検討・修正をくり返し、最終的に問題が決定されたのは5月中旬である。

エ テストの結果

テストの結果は、「個人成績票」に「進学適性能力テスト結果の見方」を添えて、受験者とその在学高等学校に通知した。

「個人成績票」には、第Ⅰ部・第Ⅱ部の得点がプリントされ、得点の解釈は「進学適性能力テスト結果の見方」を参照してできるようにした。

表6は、「結果の見方」の中に示した換算表である。得点に対する能力値の尺度は、実際
に測定された得点分布の性質をもっともよく表わす理論の分布を想定し、この理論的分布に基づいて作られたものである。能力値は平均100として表示される。

さらに能力値に対応するバーセンタイル値が計算されているので、全体の中での受検者の位置が明らかとなり、第Ⅰ部・第Ⅱ部それぞれの成績を考慮して進路決定に役だたせることができる。

<table>
<thead>
<tr>
<th>得点</th>
<th>能力値</th>
<th>バーセンタイル値</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>32</td>
<td>146</td>
<td>99以上</td>
</tr>
<tr>
<td>31</td>
<td>143</td>
<td>99</td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>140</td>
<td>98</td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td>137</td>
<td>97</td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>133</td>
<td>95</td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>130</td>
<td>93</td>
</tr>
<tr>
<td>26</td>
<td>127</td>
<td>90</td>
</tr>
<tr>
<td>25</td>
<td>123</td>
<td>86</td>
</tr>
<tr>
<td>24</td>
<td>120</td>
<td>82</td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td>117</td>
<td>77</td>
</tr>
<tr>
<td>22</td>
<td>114</td>
<td>72</td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>110</td>
<td>66</td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>107</td>
<td>60</td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>104</td>
<td>54</td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>100</td>
<td>48</td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>97</td>
<td>42</td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>94</td>
<td>36</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>91</td>
<td>31</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>87</td>
<td>26</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>84</td>
<td>21</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>81</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>77</td>
<td>13</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>74</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>71</td>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>68</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>64</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>61</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>58</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>55</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>51</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>48</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>45</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>0</td>
<td>41</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

第Ⅰ部・第Ⅱ部ともに能力値の平均値は100である。
（昭和42年度）
(3) 職業適応能力テスト

ア テストのねらいと内容

高等学校生徒が卒業後職業につく場合に、その職場で行なわれる教育と訓練とに注目し、それに対応するために必要な知的能力のうち、とくに重要とみられる一般能力と基礎学力を測定する。

このテストは、第Ⅰ部（一般能力テスト）と第Ⅱ部（基礎学力テスト）に分かれている。

第Ⅰ部の一般能力テストでは、義務教育期間中に身につけた社会人としての基本的能力のうちで、職業適応に直接的に必要な一般常識、言語能力、計算能力、推理能力、注意力などを測る。これらの能力は純粋に素質的な能力というよりも多分に後天的に育成され、発達した能力と考えられる。第Ⅱ部の基礎学力テストは、中学3年までに学んだ程度の国語・社会関係および数学・理科関係の基礎学力を測るものであるが、受験者が現在もっている学力そのものではなく、その基底にあるもの、いええば、学習に対する準備性を測定する。

イ 問題の形式

4肢選択または5肢選択形式による客観テストである。

ウ テストの作成経過

進学適性能力テストの問題作成の要領に準じて作成された。

エ テストの結果

このテストの結果は、まず第Ⅰ部得点を A、第Ⅱ部得点を B（国語・社会関係学力）および C（数学・理科関係学力）で表示する。これら A・B・C の得点は標準得点になっており、5点法による判定基準（表7）が用意されているので、全国的水準からみた能力や学力の程度、国語・社会関係学力と数学・理科関係学力とのつりあいなどを知ることができる。

さらに、非技術系職業および技術系職業への適性をみるとときに用いる値として、それぞれ \( P = \frac{A + B}{2} \), \( Q = \frac{A + C}{2} \) の得点（表8）が示される。この \( P \) 得点、\( Q \) 得点は、おのおの五つのグループの職業分類（表9）によっておおむかな適応の段階をみることができるようになっている。

このテストの測る内容は、どちらかといえば、学力的なものが相当部分をしめているので、得点を固定的変的なものとして取り扱うことは避け、現段階における生徒の能力の一面を測定しているものと解釈して利用するのが、このテストの適切な利用法といえる。

結果資料には、受験者ならびにその在学高等学校に送付される「個人成績票」「職業適応能力テスト結果の見方」「職業適応能力テスト結果についての解説」がある。
表 7

<table>
<thead>
<tr>
<th>5 点 法</th>
<th>5</th>
<th>4</th>
<th>3</th>
<th>2</th>
<th>1</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>テスト得点</td>
<td>64以下</td>
<td>63～56</td>
<td>55～45</td>
<td>44～37</td>
<td>36以下</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表 8

<table>
<thead>
<tr>
<th>職業分類</th>
<th>Aグループ</th>
<th>Bグループ</th>
<th>Cグループ</th>
<th>Dグループ</th>
<th>Eグループ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>非技術系（P得点）</td>
<td>59以上</td>
<td>58～53</td>
<td>52～45</td>
<td>44～37</td>
<td>36以下</td>
</tr>
<tr>
<td>技術系（Q得点）</td>
<td>59以上</td>
<td>58～53</td>
<td>52～45</td>
<td>44～37</td>
<td>36以下</td>
</tr>
</tbody>
</table>

Aグループ  このグループに属する職業に従事する人は、特別に組織された公共または企業内施設において、数年にわたる教育と訓練を受けるか、高度の実務経験を積まなくてはなりません。そしてその分野の専門家によって明らかにされている知識はもちろん、新しく開発された知識についても責任をもって運用できる能力を要望されます。またその仕事には、Bグループ・Cグループに属する人々の監督・管理が含まれています。したがって、その能力は大学に進学する者の能力と全く同様、それ以上であることが必要であります。

Bグループ  このグループに属する職業に従事する人は、公共または企業内施設において、2～3年の高度の教育と訓練を受ける、あるいはじゅうぶんな実務経験を積まなくてはなりません。したがって、特殊の管理のもとで、ある特定の技能を持って受け持ち作業を完遂できるように熟達することが要望されます。したがって、短大卒業以上の学力または実務的経験が必要になります。また技術革新などの影響で受け持ちの分野に新しい作業形態が導入された場合にも、それによる迅速かつ適切に応じ得るような潜在的力を持つことが大切です。

Cグループ  このグループに属する職業に従事する人は、2～3年の主として実務的な訓練を受ける、または経験を積むことが必要です。そして職場の近代的な機械・装置あるいは事務・会計・販売機構において、自分の受け持ち部分の作業を遂行するために必要な特定の操作に習熟することが要望されます。その習熟の程度は、のべ、2級技能士の水準に匹敵するものと考えられます。

Dグループ  このグループに属する職業に従事する人は、のべ1～6か月程度の実務的訓練を受けなければならない。そして、上司の直接的命令・指示のもとで、ある程度規格化された反復作業を行ないます。

Eグループ  このグループに属する職業に従事する人は、2～3週間程度の簡単な訓練を受ければ、作業に慣れることができます。そして、常に一定の指示のもとで、規格化された反復作業を行ないます。

(4) テストの改善

テストの作成・実施のかたち、テスト問題の吟味やテストの改善については、たえず検討がくり返されている。

現在行なっているテスト改善のための研究については、紙面の都合で研究主题だけを掲げる。詳しくは研究紀要などによられたい。
ア 能力の本質と測定技術の高度化に関する研究
i 得点の分布の型に関する研究
ii 能力を推定する最適の測定法に関する研究
iii テストの予見性を高める研究

イ 学力・能力テストの客観性、信頼性、妥当性などに関する研究

これらについて、進学適性能力テストの場合を例にとり、現在実施されている分析の内容および今後に構想されているテストの改善の方向などを列記する。なお、他のテストの場合も、それぞれのテストの性格からいくぶん事情は異なるが、同様の分析・調査などが行なわれている。

まず、全受験者についての分析されるのは次の事項である。

① 項 目 分 析

能力テストは前に示されたように、でたらめ解答による的不正確を防止するために各問いが甲・乙それぞれの選択肢の選択形式による対問となっている。この実際の効果を確かめるために、また正答以外の選択肢で受験者がおちいりやすいものがあるか否かを知るために各選択肢に応答した人数が表示される。

② 得点度数分布

進遅Iおよび進遅IIのそれぞれについて、各得点を示した人数が学年別・男女別・全体にわたって集計され、分布の形が明らかとなり、平均・標準偏差が算出される。こうして得られた実測の分布は、得点と能力値との対応関係から推定される理論的分布と比較されて能力値の妥当性が確かめられる。

③ 会場別集計

100人以上の会場と100人未満の会場を分ける。なおののについて学年別・男女別・全体の得点度数分布・平均・標準偏差などが算出される。これにより安定した成績を示す会場、あるいは年により成績の変動のぼらう会場のもつ特徴はどのようなものであるか検討することができる。

④ 各目的の正答率・通過率

各問いについて受験者全体のうち正答であった人数を示す正答率（P）と、各問いにおいて実際の解答をした者のうち正答に達して、次の問いに進むことができた人数を示す通過率（P’）が算出される。この結果から各問いの難易度が明らかになり、問いの配列が適切であったかどうか、問いの数が多すぎたり少すぎたりしなかったかどうかを知ることができる。

次に、受験者全体からランダム・サンプリングにより10,000人を選んで、さらに分析を行う。

⑤ アイテム・ライブラリー
各問いの小問甲・乙の選択肢について選択状況の一覧表をつくり、どの選択肢を正答とした人がテスト全体での成績はどうであったかを算出して問題内容の妥当性を確かめる。また対問間の相関係数も算出し、対問として適切であるか否かを知る。このほか、将来その問いと似た内容のものを取り上げる場合に予測の資料とすることもできる。

⑥ 項目の内部相関
進適Ⅰ、進適Ⅱの区別をせず、各問いの間の関連を知るためφおよびtetraの相関係数を算出し、テスト全体の構成が作成者の意図どおりになっているかどうかを検討する。

⑦ 正誤分析
ある問いに正答または誤答した者が、他の問いにどのように応答（正・誤）しているかを調べることによって、ある問いの解答が他の問いの解答の前提となるかどうかが確かめられる。これによって問題間の内容的関連が明らかになるとともに、ある受験者がはたしてこれに適合しているかどうかも比較できる。

⑧ 進適Ⅰと進適Ⅱとの得点2次元分布および相関係数
サンプル全体とその学年別・男女別について得点の2次元分布表をつくり、あわせて相関係数を算出し、両者の関連が各列によってどの程度かわるかを比較する。また、相関がそれほど高くない場合でも特定の集団方をするかどうか直接に確かめられる。

⑨ 各項目の得点別通過率
進適Ⅰ、進適Ⅱを通じて、ある得点をとったグループが、ある特定の問いについてどのよう通過率となったかを表示する。これにより各問いののつ個別の特性曲線がえられ、それを新しいテスト作成に利用することができる。

⑩ 対問の独立探点
小問の甲・乙ともに正答のときのみ探点となるのがこのテストの探点方式であるが、この枠をはずして、甲・乙それぞれ独立に探点となる探点方式においてはどの程度の差が生ずるかを知り、重みづけ探点の資料とする。

⑪ その他の
因子分析を始めとする各種の手法によりテストの妥当性、信頼性を確かめ、予見性を高めるとともに一般に広く用いられるよう標準化をはかっている。

(5) 追跡調査

調査の実施
昭和42年度は、以下のような調査を実施した。

ア 昭和39年度大学入学者を対象とする第2次調査（3年目）

1 調査対象
国立・公立・私立 37大学、150学部、6,981 名

二 調査事項

a 大学3年目の学業成績と能研テストの成績との関係
b 大学3年目の学業成績と大学入試の成績との関係
c 大学3年目の学業成績と高校の学習成績との関係

イ 昭和40年度大学入学者を対象とする第2次調査（2年目）

i 調査対象

国立・公立・私立74大学、257学部、7,765名

ii 調査事項

a 大学教養課程の学業成績と能研テストの成績との関係
b 大学教養課程の学業成績と大学入試の成績との関係
c 大学教養課程の学業成績と高校の学習成績との関係

ウ 昭和41年度大学入学者を対象とする第2次調査（1年目）

i 調査対象

国立・公立・私立33大学、144学部、10,204名

ii 調査事項

a 大学1年目の学業成績と能研テストの成績との関係
b 大学1年目の学業成績と大学入試の成績との関係
c 大学1年目の学業成績と高校の学習成績との関係

エ 昭和42年度大学入学者を対象とする第1次調査

i 調査対象

国立・公立16大学、22学部、5,240名

ii 調査事項

a 能研テストの成績と大学入試の成績との関係
b 能研テストの成績と高校の学習成績との関係
c 大学入試の成績と高校の学習成績との関係

調査の結果

以上の調査の細部にわたる資料の整備・分析は現在進行中であるが、その結果の一部については、「能研テストの妥当性に関する研究—追跡調査資料集1—」（昭和43年3月印刷予定）、研究紀要等において報告する予定である。
第２部 テストの実施と管理

「能研テスト」は、周知のように、全国的な規模で実施されている共通テストである。

第３部に後述するとおり、このテストは、昭和40年度以降、いくつかの大学で入学者選抜の資料に利用されている。また、本年度は、日本育英会が当研究所の実施している進学適性能力テストの問題によって、大学特別貸与奨学生の選考試験を行なっている。

このようなテストの性格から、「能研テスト」はテストの実施はもとより、実施前後の事務運営やテスト結果の処理にかかわる、いわゆるテスト管理においても、十全な計画に基づく施行が求められる。一方、テストの測定目標を正しくよくみなく達成し、受験者に対して、適切なテスト結果の解釈と洗練された検査情報を提供するためにも、厳正かつ公平なテストの運営に終始する必要がある。

全国すべてのテスト会場が、同じ条件のもとにテストのプログラムを進行させることについては、とくにテストの直接の実施にあたるテスト会場関係者に、いろいろの配慮をねがう結果となる。本年度のテスト実施にあたっても、「能研テスト」の趣旨や性格を理解いただき、関係者の多大のご協力を得て、無事に日程を終了することができた。

テスト実施上の方法・手続きなどについては、できるだけ簡素にし、テスト管理の合理的な運営をねらして改善につとめてきているが、同時に、テスト実施の大綱的な部面は、定まった方向づけを行なうようにしている。

本年度の実施方法の大要は、前年度とほぼ同様で、受験者の出願手続き等にも、大きな変更はない。受験申込者の総数は、約57万人で、これに対して全国で2,829のテスト会場が設けられた。

1 実施組織

(1) 都道府県能研支部

都道府県能研支部は、テストの広報・準備・実施・事後処理等の事務を行うことを目的として、昭和38年度（初年度）から設置されている。

支部は、主として、テストの趣旨の浸透を図り、テストの実施について本部ならびにテスト会場との連絡・調整にあたり、また入試制度改善について大学と高等学校との意見を交換する場としての機能を果たしている。各支部には、「推進協議会」が置かれ、この協議会は、支
部の活動に対して、それぞれの地域の実情に即した助言、協力を行なっている。
昭和43年3月末現在の支部の所在、支部長の委嘱状況は、次のようになっている。

<table>
<thead>
<tr>
<th>支 部 の 所 在</th>
<th>支部長の委嘱状況</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>都道府県教育委員会事務局内</td>
<td>都道府県教育長</td>
</tr>
<tr>
<td>45（支部）</td>
<td>（同代理を含む）</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>40（支部）</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>大学関係者</td>
</tr>
<tr>
<td>47</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>学識経験者</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>筑波府文教局長</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>47</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(2) テスト会場・テスト処理委員会

テスト会場は、各高等学校の施設を借用してこれに充てた。受験希望者は、自分の在学高等学校で受験するのが通例となる。ただし、テスト会場の指定には、テスト管理の完璧を期すために「原則として、受験申込者が40人以上ある高等学校」としたので、会場指定の規定数にみたない高等学校もあった。このような高等学校（被統合校とよぶ）の生徒は、学校単位でとりまとめ、近接のテスト会場あるいは能研本部、支部が設けた会場において受験できるようにした。なお、卒業者の受験会場は、被統合校生徒の場合に準じるものとした。

テスト会場の指定を受けた学校では、原則として当該高等学校長を委員長とする「テスト処理委員会」を作り、この委員会は、テスト実施のための企画・準備ならびにテストの直接の実施にあたるとともに、受験申し込み受け付けから結果の通知に及ぶ一連の事務を担当した。

2 実施経過

テスト実施の大綱は、年度頭に「能研テスト実施要領」によって公にしている。
実施要領は、支部幹事長会議・本部説明会の際出された意見・要望、または直接本部に寄せられた支部の意見・要望を参じて策定される。

支部幹事長会議は、進学適性分析テスト・職業適応能力テストが終了し、次に行われる学力テストの準備期間にあたる8月上旬に開かれ、この会議において、テスト実施の反省と改善の方策が検討されている。また、本年度は、高等学校の意向がテストに生かされるように12月20日に、高等学校と懇談の会を開催した。

本年度の実施要領決定から、テスト実施前後の経過の概要は次に示すとおりである。
テストの趣旨・実施方法ならびに年間の事業計画は、支部を主とする関係方面によって周知徹底が図られた。

「本部説明会」「支部説明会」あるいは支部を通じてテスト実施関係資料・書類を高等学校に配布するなど、テストの準備・事前活動は、テスト期日より2か月あまり前から開始した。

実施基準・実施方法の具体的な諸事項については、「能研テスト説明書—支部・テスト会場用—」を作成し、関係者に手引きとして利用できるようにした。

### 3 実施状況

#### (1) 受験申し込み受け付け

受験申し込み受け付けは、実施要領・受験案内等に示した所定の期間に、全国いっせいに各高等学校・支部および本部で取り扱った。ただし、大学特別入学生を出願して、その推せんに也好れた生徒に関しては、進学適性能力テストの申し込み受け付け期間を延長して、受験の機会を与ええた。

受験希望者は、受験申込書に、必要事項を記入し、受験料を添えて申し込むことになっている。学力テストの場合は、受験科目の選択を各自で考慮して受験手続きをしなければならない。

学力テスト（2年）では、表10の進路番号の中から、志望する進路区分を示す番号を一つ選び、国語Ⅰ（2年）、数学Ⅰ、英語B（2年）の3科目を一括受験することを定め前とした。なお、社会・理科の科目は、希望する者には、それぞれ2科目まで受験を認めた。

学力テスト（3年）では、図3のように、全国各大学学部等に進路番号が付与されていて、進
路番号に対応して受験科目が表示されている。図3の「能研テスト大学学部別受験科目一覧」は、各大学学部の入試科目の実態を調べて、当研究所で作成したものである。受験者は、この一覧にしたがって、第一志望の大学学部の路番号を選び、当該路番号の教科・科目を受験することを建て前とした。ただし、時間割の許す限り、所要の教科・科目以外の科目の受験はさしつかえないこととしているので、科目選択に関しては第一志望に限定してはいない。
なお、学力テストの受験科目の選択状況は、27ページの表13〜15を参照されたい。

表10 学テクタ（2年）の進路区分と進路番号

<table>
<thead>
<tr>
<th>4年制大学文科系</th>
<th>4年制大学理科系</th>
<th>短期大学</th>
<th>その他</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>00001</td>
<td>00002*→</td>
<td>00003</td>
<td>00004</td>
</tr>
</tbody>
</table>

図3 学テクタ（3年）の進路番号と受験科目

<table>
<thead>
<tr>
<th>大学名</th>
<th>学部名</th>
<th>国語</th>
<th>社会</th>
<th>数学</th>
<th>理科</th>
<th>物理</th>
<th>化学</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>大学名</td>
<td>進路番号</td>
<td>受験科目</td>
<td>データ選択</td>
<td>外国語</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>萩城</td>
<td>11420</td>
<td>甲</td>
<td>乙</td>
<td>丙</td>
<td>丁</td>
<td>甲</td>
<td>乙</td>
</tr>
<tr>
<td>大学名</td>
<td>進路番号</td>
<td>受験科目</td>
<td>データ選択</td>
<td>外国語</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>大学名</td>
<td>進路番号</td>
<td>受験科目</td>
<td>データ選択</td>
<td>外国語</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

（2）受験申込者数の集計と問題用紙等の発送

各テストとも受験申込者数の確定は、テスト会場の指定、問題用紙等の発送数、ならびに輸送計画の決定など総合的なテスト管理にかかわる重要な事項である。41年度からこの集計作業は、解答用紙と同じ電子計算機用のカード（申込カード）を使用して行なっている。「申込カード」は各高等学校において直接配布されたが、支部の発行を経て、本部において集計がなされた。

集計の結果表、再び支部において「申込カード原票」等による点検が行なわれ、「受験申込者台帳」「問題用紙発送台帳」等が整備された。これらに基づき、問題用紙等はテスト実施期日の約10日〜20日以前に遠隔地から順次発送した。発送には輸送中の事故を考え、宛名表示の紙による封印をし、学力テストの「放送用録音テープ」に同様の処置をとった。輸送の途上、
各支部所在の日通主管店で、支部の担当者による着荷・個数・異状などの有無が確認された上で、テスト会場に直送された。テスト会場ではテスト処理委員長の管理下に置かれ、選考試験の資料として用いられる進学適性能力テストと学力テストでは、とくに保管・管理に万全を期した。問題用紙の開封は、テスト開始1時間前に立会人の立ち会いのもとに行なわれた。この立会人は当研究所の所長が委嘱し、テスト会場の関係者以外の第三者とした。立ち会いの重点は、指示の点検と問題用紙等の内容と部数の確認におかれて、事故があった場合は、立会人はテスト処理委員長と打ち合わせ、支部長に報告し、その指示をうけることになっている。

(3) テストの実施

進学適性能力テスト・職業適応能力テストは7月1日、学力テストは11月18日、19日の両日にわたって、それぞれ予定どおり次の時間割にしたがって実施された。なお、大学特別奨学生

<table>
<thead>
<tr>
<th>テスト時間割 7月1日（土）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><strong>進学適性能力テスト</strong></td>
</tr>
<tr>
<td><strong>第Ⅰ部</strong></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td><strong>休憩</strong></td>
</tr>
<tr>
<td><strong>第Ⅱ部</strong></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>テスト時間割 11月18日（土）、19日（日）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><strong>区分</strong></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td><strong>11月18日（土）</strong></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）1 国語Ⅰ（2年）、英語B（2年・3年）、ドイツ語（3年）、フランス語（3年）のテストにおいては、放送によるテストをそれぞれテスト時間のはじめに行なった。
2 国語Ⅰ（3年）、国語Ⅱ（3年）、数学甲・社会（1科目受験の場合）および理科（2科目受験の場合）のテストは、2分間の説明時間をはさんで前半と後半に分けて行なった。
の選考にかかわる進学適性能力テストも、同日、同時間に日本育英会の管理下で実施されてい
る。

テストの種類別・学年別の受験申込者数と受験者数は、表11のとおりである。表中の出席率
は、受験申込者数に対する受験者数の割合を示したものである。全テストの出席率を過去3年間
についてみると、40年度90.9%、41年度90.4%、本年度は90.7%となり、例年、欠席者約
1割程度である。

| 表11 テスト受験申込者・受験者総数 |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 区分 | 受験申込者数 | 受験者数 | 出席率 |
| 計 | 179,243 | 159,779 | 89.1 |
| 学力テスト | | | |
| 2年 | 90,836 | 82,643 | 91.0 |
| 3年 | 88,407 | 77,136 | 87.3 |
| 進学適性能力テスト | | | |
| 2年 | 207,319 | 188,183 | 90.8 |
| 3年 | 154,032 | 143,929 | 93.4 |
| 職業適応力テスト | | | |
| 1年 | 53,287 | 44,254 | 83.0 |
| 2年 | 181,097 | 166,831 | 92.1 |
| 3年 | 84,727 | 78,480 | 92.6 |
| 3年 | 88,506 | 82,595 | 93.3 |
| 3年 | 7,864 | 5,756 | 73.2 |
| 合計 | 567,659 | 514,793 | 90.7 |

[注] 定時制課程在学者は相当学年に、卒業者は3学年に、それぞれ算入した。

各テストの受験者数は、学力テストと進学テストでは、2年生の受験が多く、とくに進学テ
ストではこのことが顕著である。前年度、前々年度にも同様な傾向がみられた。職業テスト
で、3年生の参加が少ないのは、この学年が受験対象に含まれていないが、希望する者にのみ
受験を認めているためである。

進学・職業テストの第Ⅰ部・第Ⅱ部の受験状況、学力テストの受験教科・科目の選択状況は
表12～表15に示すとおりである。

| 表12 進学テスト・職業テストの第Ⅰ部・第Ⅱ部受験状況 |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 区分 | 第Ⅰ部 | 第Ⅱ部 | 第Ⅰ部・第Ⅱ部 |
| 進学テスト | | | |
| 受験者数 | 188,167 | 187,691 | 187,675 |
| 職業テスト | | | |
| 受験者数 | 166,828 | 166,766 | 166,763 |

[注] 表頭右側の第Ⅰ部・第Ⅱ部は、第Ⅰ部受験者ならびに第Ⅱ部受験者のうち
第Ⅰ部・第Ⅱ部をあわせて、完全に受験した受験者である。

進学・職業テストは、いずれも第Ⅰ部と第Ⅱ部から構成されている。両方の受験者数が異な
るものは、受験者が個別的な事情によって、いずれか一方を受験しない場合があるためである。
このような事例はきわめて僅少で、ほとんどの受験者は両方を完全に受験している。

— 26 —
表13 学力テスト（2年）の受験科目選択状況

<table>
<thead>
<tr>
<th>区 分</th>
<th>国 語</th>
<th>数 学</th>
<th>英 語 B</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>受験者数</td>
<td>81,585</td>
<td>74,618</td>
<td>81,219</td>
</tr>
<tr>
<td>比 率（％）</td>
<td>98.7</td>
<td>90.3</td>
<td>98.3</td>
</tr>
</tbody>
</table>

[注] 比率は学力テスト（2年）の全受験者に対する各科目受験者の割合である。

表14 学力テスト（2年）の社会・理科の科目選択状況

＜社会＞

<table>
<thead>
<tr>
<th>区 分</th>
<th>倫理・社会</th>
<th>政治・経済</th>
<th>日本史</th>
<th>世界史 B</th>
<th>地理 B</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>受験者数</td>
<td>585</td>
<td>278</td>
<td>686</td>
<td>1,338</td>
<td>3,961</td>
<td>6,848</td>
</tr>
<tr>
<td>比 率（％）</td>
<td>8.5</td>
<td>4.1</td>
<td>10.0</td>
<td>19.5</td>
<td>57.9</td>
<td>100.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

＜理科＞

<table>
<thead>
<tr>
<th>区 分</th>
<th>物 理 B</th>
<th>化 学 B</th>
<th>生 物</th>
<th>地 学</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>受験者数</td>
<td>1,061</td>
<td>1,635</td>
<td>3,621</td>
<td>432</td>
<td>6,749</td>
</tr>
<tr>
<td>比率（％）</td>
<td>15.7</td>
<td>24.2</td>
<td>53.7</td>
<td>6.4</td>
<td>100.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表13の比率は、学力テスト（2年）全受験者に対する当該教科・科目の受験者の割合である。

－括受験する建前にっている3科目について表示した。数学Iの比率が、若干、低くなっているのは、テスト周期の関係とみられる。希望者に限り受験者が認められている社会・理科では、全受験者に対する社会受験者（延数）の比率は8.3％、同じく理科受験者（延数）の比率は8.2％であった。この二つの教科について、さらに科目選択の状況を表14に示した。地理Bと生物が高率になっているのは、科目の学年履修に照応している。

表15 学力テスト（3年）の受験科目選択状況

<table>
<thead>
<tr>
<th>区 分</th>
<th>国 語</th>
<th>社 会</th>
<th>数 学</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>I</td>
<td>II</td>
<td>倫理・社会</td>
</tr>
<tr>
<td>受験者数</td>
<td>58,793</td>
<td>6,261</td>
<td>1,984</td>
</tr>
<tr>
<td>比率（％）</td>
<td>76.2</td>
<td>8.1</td>
<td>2.6</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>区 分</th>
<th>理 科</th>
<th>外 国 語</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>物理 B</td>
<td>化学 B</td>
</tr>
<tr>
<td>受験者数</td>
<td>14,105</td>
<td>22,129</td>
</tr>
<tr>
<td>比率（％）</td>
<td>18.3</td>
<td>28.7</td>
</tr>
</tbody>
</table>

[注] 比率は学力テスト（3年）の全受験者に対する各科目受験者の割合である。
表15の比率は、表13に準じている。
ここでは、受験者の志望する大学学部の入試科目の反映として、比率を見るべきであろう。したがって、あえて傾向を指摘することはさしきかえた。
学力テスト（2年）で、3科目を一括受験した者は、全受験者の89.0%であった。
また、学力テスト（3年）で、受験科目を自分の志望する大学学部の入試科目に即して選択した者は、4年制大学受験者では83.6%（国立—81.3%、公立—85.3%、私立—84.6%）、短期大学受験者では80.6%となっている。
受験科目数は、学力テスト（2年）では、3科目受験者が81.9%である。これは、3科目の一括受験が建て前であるから当然の比率である。ただし、この場合の3科目は、必ずしも国語・数学・英語とは限らない。学力テスト（3年）では、3科目66.9%、つづいて2科目9.3%、5科目7.0%、4科目6.4%の順になっている。
テスト会場数は、学力テストでは1,150会場、進適テスト・職適テストでは1,679会場となった。

### 表16 テスト会場数

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>学力テスト</th>
<th>進適テスト・職適テスト</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>支部</td>
<td>1,124</td>
<td>365</td>
<td>1,158</td>
</tr>
<tr>
<td>学校</td>
<td>25</td>
<td>3</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>本部</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>1,150</td>
<td>368</td>
<td>1,169</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【注】テスト会場数はテスト実施時のものを集計した。

進適テストと職適テストは、同日に並行して実施しているので、表16ではテスト会場の内訳を3種類に類別して示した。たとえば、表頭に「進適」とあるのは、進適テストの受験者から成る会場、「進適・職適」とあるのは、進適テスト・職適テスト両方の受験者から成る会場である。

被統合校数は、学力テストでは、719校、進適テスト・職適テストでは、417校となっている。学力テストで、被統合校数が多いのは、このテストを利用する大学を志望する受験者が、個人的なテストに参加することのされやすさとみられる。テスト会場になった学校に被統合校・支部もしくは本部の会場で受験した生徒の学校を加えると、学力テストの参加校は約2,000校となる。

表17は、テスト会場を受験者の数によって規模別に集計したものである。また、表18によって、学力テストの会場と進適・職適テストの会場の関連を規模別の区分にしたがってあらわしてみた。この表から本年度の「能研テスト」は、1,838の学校を会場として実施され、うち951会場は、両2回のテストで会場となっていることが分かる。

— 28 —
表 17 会場規模からみた会場設置状況

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>49人以下</th>
<th>50〜99人</th>
<th>100〜199人</th>
<th>200〜299人</th>
<th>300〜499人</th>
<th>500〜999人</th>
<th>1000人以上</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>学力 2年</td>
<td>15</td>
<td>14</td>
<td>10</td>
<td>5</td>
<td>2</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>46</td>
</tr>
<tr>
<td>学力 3年</td>
<td>45</td>
<td>42</td>
<td>26</td>
<td>10</td>
<td>7</td>
<td>5</td>
<td>1</td>
<td>136</td>
</tr>
<tr>
<td>学力 2年・3年</td>
<td>262</td>
<td>310</td>
<td>189</td>
<td>78</td>
<td>59</td>
<td>38</td>
<td>6</td>
<td>942</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>322</td>
<td>366</td>
<td>225</td>
<td>93</td>
<td>68</td>
<td>43</td>
<td>7</td>
<td>1,124</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>63</th>
<th>91</th>
<th>100</th>
<th>45</th>
<th>44</th>
<th>19</th>
<th>3</th>
<th>365</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>職適テスト</td>
<td>31</td>
<td>33</td>
<td>30</td>
<td>26</td>
<td>16</td>
<td>6</td>
<td>ー</td>
<td>142</td>
</tr>
<tr>
<td>進適・職適テスト</td>
<td>156</td>
<td>263</td>
<td>242</td>
<td>195</td>
<td>195</td>
<td>93</td>
<td>14</td>
<td>1,158</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>250</td>
<td>387</td>
<td>372</td>
<td>266</td>
<td>255</td>
<td>118</td>
<td>17</td>
<td>1,665</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>572</th>
<th>753</th>
<th>597</th>
<th>359</th>
<th>323</th>
<th>161</th>
<th>24</th>
<th>2,789</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>計</td>
<td>714</td>
<td>322</td>
<td>366</td>
<td>225</td>
<td>93</td>
<td>68</td>
<td>43</td>
<td>1838</td>
</tr>
</tbody>
</table>

[注] 本部会場、支部会場を除く。表18もこれに準じる。

表 18 会場規模からみた学力テスト会場と進適・職適テスト会場との関係

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>0人以下</th>
<th>49人以下</th>
<th>50〜99人</th>
<th>100〜199人</th>
<th>200〜299人</th>
<th>300〜499人</th>
<th>500〜999人</th>
<th>1000人以上</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>進適</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
</tr>
<tr>
<td>進適・職適</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
</tr>
<tr>
<td>テスト</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
<td>ー</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>714</td>
<td>322</td>
<td>366</td>
<td>225</td>
<td>93</td>
<td>68</td>
<td>43</td>
<td>1838</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

(4) テスト結果の処理・通知

解答用紙は、テスト会場において整理され、送り状を添えて本部に送付された。採点・集計は電子計算機を使用して迅速に行われるので、解答用紙は、テスト実施期日から10日以内に本部に到着するようにした。

採点・集計は、電子計算機を用いて本部で行なった。現行のマークセンシングのテスト方式を全面的に採用したのは、39年度からである。初年度は採点盤を用いて手採点を行ない、得点

— 29 —
を電子計算機用のマークリーダー・カードに転記し、これを電子計算機で処理した。採点・転記の作業は、すべてテスト会場で行なわれた。39年度からは、マークリーダー・カードそのもの を解答用紙とし、直接、解答用紙をせん孔して電子計算機によみとらせる方法をとった。さらに、41年度には、解答用紙の内容をそのまま、磁気テープに記録することができるオスレ機 構を本部に設置して結果処理を高速化した。また、この年度から学力テストの受験者に、「受 験者カード」の記入、提出をもとめた。「受験者カード」は、個人成績票に受験者の氏名をプ リントしたり、大学からのテスト結果の照会にたえたときなどに利用している。

テスト結果は、本部から直接テスト会場に送付し、受験者と学校に通知した。学力テスト （3年）の結果資料は、支部を通じてテスト会場に配布した。それぞれのテストで、通知・配 布した資料については、第1部10ページに示してある。

(5) テストの受験者

ア 学年別・課程別受験者数

次の各表は、テストごとに受験者の学年と課程を示したものである。前掲の表11は、これ らの表をもとににして、定時制課程在学者を相当学年に算入して構成したものである。さら に、これらの表を学科別にみた表は、巻末に付表として収録してある。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表19 学力テスト</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>区分</td>
</tr>
<tr>
<td>------</td>
</tr>
<tr>
<td>全日</td>
</tr>
<tr>
<td>定時</td>
</tr>
<tr>
<td>通信</td>
</tr>
<tr>
<td>大検</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>表20 進達テスト</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>区分</td>
</tr>
<tr>
<td>------</td>
</tr>
<tr>
<td>全日</td>
</tr>
<tr>
<td>定時</td>
</tr>
<tr>
<td>通信</td>
</tr>
<tr>
<td>大検</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
</tr>
</tbody>
</table>
### 表 21 職適テスト

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>1年</th>
<th>2年</th>
<th>3年</th>
<th>4年</th>
<th>卒1</th>
<th>卒2</th>
<th>卒3</th>
<th>卒4以上</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>全日</td>
<td>77,677</td>
<td>82,107</td>
<td>5,480</td>
<td>...</td>
<td>2</td>
<td>3</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>165,269</td>
</tr>
<tr>
<td>定時</td>
<td>331</td>
<td>471</td>
<td>488</td>
<td>271</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>1</td>
<td>1,561</td>
</tr>
<tr>
<td>通信</td>
<td>1</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>1</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>大検</td>
<td>...</td>
<td>...</td>
<td>...</td>
<td>271</td>
<td>2</td>
<td>3</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>166,831</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>78,009</td>
<td>82,578</td>
<td>5,968</td>
<td>271</td>
<td>2</td>
<td>3</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

イ 受験者の志望傾向

学力テストでは、受験者カードに進路番号を記入させたので、これによって受験者の志望傾向をとらえることができる。

以下、表22〜表24は、学力テスト受験者についてその志望傾向を大学の設置者別・学部系統別ならびに地域別等の区分により整理したものである。

i 設置者別志望傾向

### 表 22 志望進路別受験者数（学力テスト 2年）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>受験者数</th>
<th>比率（％）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>4年制大学文科系</td>
<td>34,143</td>
<td>41.3</td>
</tr>
<tr>
<td>4年制大学理科系</td>
<td>26,291</td>
<td>31.8</td>
</tr>
<tr>
<td>短期大学</td>
<td>8,110</td>
<td>9.8</td>
</tr>
<tr>
<td>その他の</td>
<td>14,099</td>
<td>17.1</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>82,643</td>
<td>100.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 表 23 志望大学別受験者数（学力テスト 3年）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>受験者数</th>
<th>比率（％）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>4年制大学文科系</td>
<td>240</td>
<td>0.3</td>
</tr>
<tr>
<td>国立</td>
<td>1,816</td>
<td>2.4</td>
</tr>
<tr>
<td>公立</td>
<td>10,818</td>
<td>14.1</td>
</tr>
<tr>
<td>私立</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他の</td>
<td>15,244</td>
<td>19.7</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>77,136</td>
<td>100.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>
図4 志望大学（4年制）の設置者別受験者数

募集定員

国立 公立 私立

受験者

0 20 40 60 80 100(％)

【注】募集定員は「昭和42年度全国大学一覧」「昭和42年度全国短期大学・高等専門学校一覧」所載の資料（昭和42年4月現在）に従う。ただし神職の大学を除く。
募集定員については以下図に準じるので脚注を省略する。

ii 学部系統別志望傾向

表24では、学力テスト（3年）受験者のうち、4年制大学を志望した受験者について、志望の学部系統を示した。

表24 学部系統別受験者数

<table>
<thead>
<tr>
<th>学部系統コード</th>
<th>文学</th>
<th>法</th>
<th>商</th>
<th>理</th>
<th>工学</th>
<th>医学</th>
<th>色</th>
<th>音楽</th>
<th>体育</th>
<th>教育</th>
<th>云</th>
<th>营</th>
<th>教</th>
<th>成</th>
<th>救育その他</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>受験者数</td>
<td>8,012</td>
<td>14,368</td>
<td>2,349</td>
<td>8,180</td>
<td>1,864</td>
<td>4,454</td>
<td>1,442</td>
<td>1,612</td>
<td>5,420</td>
<td>1,097</td>
<td>48,798</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>比率(％)</td>
<td>16.4</td>
<td>29.5</td>
<td>4.8</td>
<td>16.8</td>
<td>3.8</td>
<td>9.1</td>
<td>3.0</td>
<td>3.3</td>
<td>11.1</td>
<td>2.2</td>
<td>100.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

【注1】( ) の中の数字は4年制大学募集定員に対する各学部系統別募集定員の構成比である。
【注2】次に大学学部は上表に見えるように受験者数を集計していないので、所要の受験者数は各学部、学科等の募集定員に基づき、比例配分によって算定した。
北海道一文理類、東京一文理類、一三類、広島一教育学部の教育と教員養成の学科。

表中の学部系統コードは4年制大学の進路番号の下2桁目をコードとした数字である。

進路番号は、各大学ごとにデータを処理したり、検索したりするうえで索引としての効果をもつものである。したがって、本年度から5桁の数字を使用して、番号のコード化を行う、発信的な使用にたえうる番号編成を意図した。ちなみに、4年制大学では、上位3桁（高級の数字1国立、2私学、3私立）を大学コードとし、大学の地域的な配列にしたがって、各大学に固有番号を順次連続して付与した。下位2桁は、学部系統・学部を表現するコードとして、短期大学では、下位3桁を4年制大学に準じて大学コードとしている。上位2桁の01で短大・国立、02で短大・公立、03で短大・私立を表示している。

次の例は、24ページ、図3から引用した。

＜4年制大学＞ 114 30 114は当該大学の固有番号で高級の1
大学 学部系統コードコードは国立大学の表示、30は学部（系統）
コードで工学部を示す。
iii 地域別志望傾向

次の表25、表26は、学力テスト（3年）受験者の志望した大学の傾向を地域的にみたものである。地域区分は次の10地域とした。

<table>
<thead>
<tr>
<th>地域名</th>
<th>都道府県名</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>北海道</td>
</tr>
<tr>
<td>東北</td>
<td>青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島</td>
</tr>
<tr>
<td>東京</td>
<td>東京</td>
</tr>
<tr>
<td>東北</td>
<td>茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川</td>
</tr>
<tr>
<td>東海</td>
<td>新潟、富山、石川、福井、山梨、長野</td>
</tr>
<tr>
<td>近畿</td>
<td>奈良、和歌山</td>
</tr>
<tr>
<td>中部</td>
<td>鳥取、島根、岡山、広島、山口</td>
</tr>
<tr>
<td>四国</td>
<td>徳島、香川、愛媛、高知</td>
</tr>
<tr>
<td>九州</td>
<td>福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表25 志望大学の地域別・設置者別にみた受験者

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>領域</th>
<th>北海道</th>
<th>東北</th>
<th>東京</th>
<th>関東</th>
<th>甲信越・北陸</th>
<th>東海</th>
<th>近畿</th>
<th>中部</th>
<th>四国</th>
<th>九州</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国立大学</td>
<td>実数</td>
<td>1,527</td>
<td>1,258</td>
<td>2,551</td>
<td>2,534</td>
<td>1,936</td>
<td>1,854</td>
<td>2,306</td>
<td>1,428</td>
<td>1,204</td>
<td>3,765</td>
<td>20,357</td>
</tr>
<tr>
<td>公立大学</td>
<td>比率</td>
<td>7.5</td>
<td>6.2</td>
<td>12.5</td>
<td>12.5</td>
<td>9.5</td>
<td>9.1</td>
<td>11.3</td>
<td>7.0</td>
<td>5.9</td>
<td>18.5</td>
<td>100.0</td>
</tr>
<tr>
<td>私立大学</td>
<td>実数</td>
<td>56</td>
<td>478</td>
<td>18,722</td>
<td>1,191</td>
<td>104</td>
<td>1,336</td>
<td>4,969</td>
<td>385</td>
<td>488</td>
<td>657</td>
<td>28,386</td>
</tr>
<tr>
<td>比率</td>
<td>0.2</td>
<td>1.7</td>
<td>65.9</td>
<td>4.2</td>
<td>0.4</td>
<td>4.7</td>
<td>17.5</td>
<td>1.4</td>
<td>1.7</td>
<td>2.3</td>
<td>100.0</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>短期大学</td>
<td>実数</td>
<td>137</td>
<td>765</td>
<td>4,628</td>
<td>1,266</td>
<td>456</td>
<td>949</td>
<td>1,997</td>
<td>1,154</td>
<td>366</td>
<td>1,144</td>
<td>12,862</td>
</tr>
<tr>
<td>比率</td>
<td>1.1</td>
<td>5.9</td>
<td>36.1</td>
<td>9.8</td>
<td>3.5</td>
<td>7.4</td>
<td>15.5</td>
<td>9.0</td>
<td>2.8</td>
<td>8.9</td>
<td>100.0</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>実数</td>
<td>1,720</td>
<td>2,501</td>
<td>25,901</td>
<td>4,991</td>
<td>2,496</td>
<td>4,139</td>
<td>9,871</td>
<td>2,967</td>
<td>2,058</td>
<td>5,561</td>
<td>61,605</td>
</tr>
<tr>
<td>比率</td>
<td>2.8</td>
<td>4.1</td>
<td>42.1</td>
<td>8.1</td>
<td>4.1</td>
<td>6.7</td>
<td>15.0</td>
<td>4.8</td>
<td>3.3</td>
<td>9.0</td>
<td>100.0</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

【注1】（）の中の数値は地域別にみた募集定員の構成比である。
【注2】大学の所在地は当該大学の本部所在地とした。
【注3】日本放送大学・沖縄の受験者を除く。表26もこれに準じる。
表26 大学の募集定員に対する受験者の割合

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>国立大学</th>
<th>公立大学</th>
<th>私立大学</th>
<th>短期大学</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>11.2</td>
<td>1312.5</td>
<td>2.9</td>
<td>3.4</td>
</tr>
<tr>
<td>東京都</td>
<td>12.0</td>
<td>31.7</td>
<td>15.6</td>
<td>8.2</td>
</tr>
<tr>
<td>京都府</td>
<td>14.0</td>
<td>36.9</td>
<td>17.4</td>
<td>19.7</td>
</tr>
<tr>
<td>甲府・北陸</td>
<td>29.5</td>
<td>41.4</td>
<td>11.1</td>
<td>16.3</td>
</tr>
<tr>
<td>東海道</td>
<td>18.2</td>
<td>314.4</td>
<td>17.2</td>
<td>10.9</td>
</tr>
<tr>
<td>近畿地方</td>
<td>13.4</td>
<td>24.9</td>
<td>17.4</td>
<td>13.0</td>
</tr>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>16.2</td>
<td>4.1</td>
<td>28.3</td>
<td>12.8</td>
</tr>
<tr>
<td>募集定員</td>
<td>63,931</td>
<td>8,873</td>
<td>136,945</td>
<td>77,591</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表25は、地域別に受験者の志望大学によって受験者数を集計し、その構成比を示したものである。

表26は、地域別に表25の受験者数とこれに対応する大学の募集定員との関係を示したものである。たとえば、北海道にある国立大学を志望した受験者は、北海道にある国立大学の募集定員の11.2％になっている。

さらに表27では、地域別に受験者の受験会場と志望大学との関係を構成比によって示した。受験者の受験会場は、おおむねその在学高等学校もしくは近接の高等学校である。したがって、能勢テスト受験者という限定はあるが、これらの表から大学受験者の地域的動態の一端をうかがい知ることができる。
### 表 27 地域別にみた受験者の受験会場と志望大学との関係

#### 4年制大学

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>北海道</th>
<th>東北</th>
<th>東京</th>
<th>関東</th>
<th>甲信越・北陸</th>
<th>東海</th>
<th>近畿</th>
<th>中部</th>
<th>四国</th>
<th>九州</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>62.3</td>
<td>1.6</td>
<td>0.8</td>
<td>0.8</td>
<td>0.1</td>
<td>1.2</td>
<td>0.2</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>0.1</td>
<td>2.6</td>
</tr>
<tr>
<td>受東北</td>
<td>9.3</td>
<td>55.7</td>
<td>4.9</td>
<td>3.8</td>
<td>2.1</td>
<td>1.6</td>
<td>0.8</td>
<td>0.1</td>
<td>0.2</td>
<td>5.1</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>受関東</td>
<td>6.8</td>
<td>1.0</td>
<td>27.6</td>
<td>8.2</td>
<td>1.3</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.1</td>
<td>0.1</td>
<td>0.4</td>
<td>13.1</td>
</tr>
<tr>
<td>受甲信越・北陸</td>
<td>8.1</td>
<td>22.5</td>
<td>36.2</td>
<td>68.1</td>
<td>10.3</td>
<td>5.2</td>
<td>2.4</td>
<td>0.2</td>
<td>0.1</td>
<td>0.2</td>
<td>23.2</td>
</tr>
<tr>
<td>受東海</td>
<td>2.3</td>
<td>7.5</td>
<td>8.3</td>
<td>5.2</td>
<td>66.8</td>
<td>6.1</td>
<td>8.4</td>
<td>1.4</td>
<td>0.4</td>
<td>0.3</td>
<td>8.9</td>
</tr>
<tr>
<td>受近畿</td>
<td>3.8</td>
<td>6.2</td>
<td>7.0</td>
<td>6.0</td>
<td>11.9</td>
<td>68.2</td>
<td>7.9</td>
<td>2.6</td>
<td>1.1</td>
<td>0.8</td>
<td>10.2</td>
</tr>
<tr>
<td>受中部</td>
<td>2.1</td>
<td>1.1</td>
<td>1.6</td>
<td>0.5</td>
<td>2.4</td>
<td>3.6</td>
<td>44.6</td>
<td>2.2</td>
<td>1.5</td>
<td>0.9</td>
<td>8.1</td>
</tr>
<tr>
<td>受四国</td>
<td>1.4</td>
<td>1.0</td>
<td>4.4</td>
<td>2.0</td>
<td>1.6</td>
<td>3.9</td>
<td>12.5</td>
<td>68.9</td>
<td>8.5</td>
<td>6.8</td>
<td>7.7</td>
</tr>
<tr>
<td>受九州</td>
<td>1.8</td>
<td>1.2</td>
<td>5.0</td>
<td>3.0</td>
<td>2.3</td>
<td>6.1</td>
<td>17.3</td>
<td>17.6</td>
<td>85.2</td>
<td>4.8</td>
<td>9.7</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### 短期大学

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>北海道</th>
<th>東北</th>
<th>東京</th>
<th>関東</th>
<th>甲信越・北陸</th>
<th>東海</th>
<th>近畿</th>
<th>中部</th>
<th>四国</th>
<th>九州</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>北海道</td>
<td>71.5</td>
<td>1.7</td>
<td>0.6</td>
<td>0.3</td>
<td>—</td>
<td>0.1</td>
<td>0.4</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>1.2</td>
</tr>
<tr>
<td>受東北</td>
<td>11.7</td>
<td>91.4</td>
<td>5.8</td>
<td>7.1</td>
<td>2.4</td>
<td>1.5</td>
<td>0.7</td>
<td>0.3</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>8.7</td>
</tr>
<tr>
<td>受関東</td>
<td>3.7</td>
<td>—</td>
<td>33.5</td>
<td>7.8</td>
<td>—</td>
<td>0.3</td>
<td>0.3</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>0.3</td>
<td>12.9</td>
</tr>
<tr>
<td>受甲信越・北陸</td>
<td>5.8</td>
<td>4.2</td>
<td>34.7</td>
<td>63.1</td>
<td>3.1</td>
<td>1.5</td>
<td>0.7</td>
<td>0.3</td>
<td>0.3</td>
<td>—</td>
<td>19.4</td>
</tr>
<tr>
<td>受東海</td>
<td>2.2</td>
<td>1.9</td>
<td>7.3</td>
<td>5.8</td>
<td>87.1</td>
<td>6.4</td>
<td>5.9</td>
<td>0.1</td>
<td>0.5</td>
<td>—</td>
<td>7.8</td>
</tr>
<tr>
<td>受近畿</td>
<td>2.2</td>
<td>0.3</td>
<td>8.6</td>
<td>6.7</td>
<td>4.6</td>
<td>75.6</td>
<td>5.0</td>
<td>3.0</td>
<td>0.3</td>
<td>0.1</td>
<td>10.4</td>
</tr>
<tr>
<td>受中部</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>0.4</td>
<td>0.6</td>
<td>0.4</td>
<td>1.9</td>
<td>47.9</td>
<td>0.3</td>
<td>0.3</td>
<td>1.1</td>
</tr>
<tr>
<td>受四国</td>
<td>0.7</td>
<td>0.1</td>
<td>2.9</td>
<td>2.8</td>
<td>1.3</td>
<td>4.0</td>
<td>18.5</td>
<td>82.8</td>
<td>2.7</td>
<td>6.4</td>
<td>12.6</td>
</tr>
<tr>
<td>受九州</td>
<td>1.5</td>
<td>0.1</td>
<td>3.0</td>
<td>2.5</td>
<td>—</td>
<td>6.3</td>
<td>16.9</td>
<td>10.7</td>
<td>94.3</td>
<td>1.1</td>
<td>8.2</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
<td>100.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

— 35 —
第3部 能研テストの利用

「能研テスト」は、昭和42年大学入学者選抜実施要項において、「能研テストの結果の一部もしくは全部を入学者選抜の資料を補うために利用すること、または大学が実施する学力検査の一部もしくは全部にかえて利用することもさしつかえない」ことが示された。このこととも関連して、能研テストの利用について具体的な検討を行なう大学が増加する傾向にある。

本年度は、「能研テスト」のうち学力テストを入学者選抜の資料として用いた大学数は37大学であった。また、一部の会社において、育英奨学金貸与のため、あるいは社員の基礎学力の実態把握のため用いられた。

進学適性能力テストの大学における利用は、本年度まではまだその例がみられないが、昭和40年度より、国費・自費沖縄学生（留学生）の選考に学力テストとあわせて利用されてきており、本年度は、日本育英会が、このテストの問題を使用して大学特別貸与奨学生の選考を行なっている。一部において、都道府県条例または会社の規定に基づく育英奨学金貸与生の選考に用いられている例もある。

職業適性能力テストは、一部の官庁および会社において、職員の配置または教育訓練の資料としてされている。

なお、受験者ならびに高等学校の立場から、能研テストを進路の選択決定あるいは指導のために利用している事例や実践的な調査研究が発表されている。

1 大学における「能研テスト」の利用状況

(1) 「能研テスト」と大学入学者選抜実施要項

大学が、毎年、入学者の選抜を行うにあたっては、文部省大学学術局長から通知されてい る「大学入学者選抜実施要項」によって実施するのが通例になっている。

この実施要項に、「能研テスト」に関することが示されたのは、昭和41年度入試（これに対応する能研テストは、40年度テストである）からである。

本年度の実施要項において、前年度との主な相違点としてあげている3項目のうち、2項目は能研テストに関する事項で、「大学が推奨入試を実施する場合には、能研テストの結果を判定の参考資料にすることが望ましい旨を明らかにしたこと」「大学における便宜のため、調査書の様式を改訂し能研テストの得点を記入させることにしたこと」となっている。これを、
実施要項の本文によれば、次のとおりである。選抜方法の項は、前年度と同様である。

【選抜方法】
入学者の選抜は、出身学校長から提出される調査書、大学が実施する学力検査および健康診断の結果を参考とし、合理的に総合して判定する方法による。
また、入学定員の一部について、学力検査を免除して出身学校長の推薦に基づいて判定する方法によることもできる。
なお、大学の意向により、財団法人能力開発研究所の行なうテスト（進学適性能力テスト、学力テスト）の結果の一部もしくは全部を上記の資料を補うために利用すること、またはこのテストの一部もしくは全部をもって大学が実施する学力検査の一部もしくは全部にかえて利用することもきしづかえない。

【推薦入学】
学力検査を免除して出身学校長からの推薦に基づいて判定する方法による場合は、大学が定めた推薦の要件を高等学校にできるだけ具体的に提示して推薦を求めるものとする。
なお、推薦入学を実施する場合には、財団法人能力開発研究所の行なうテストの結果を判定の参考資料とすることが望ましい。

「能研テストの記録」欄は、能研テストを受験した生徒について、受験年度、受験番号（府県番号、会場番号、組番号、出席簿番号）および得点などの記入欄により記入するところ。
(7) 学力テストについては、直近の年度における「3年学力テスト」の結果について、受験年度、受験番号、受験科目名およびその得点ならびに平均点を記入する。
(8) 学力テストの受験者については、1科目でも受験していれば記入対象とする。
(9) 進学適性能力テストについては、直近の年度におけるテストの結果について受験年度、受験番号および得点を記入するものとする。

<table>
<thead>
<tr>
<th>能の研テスト refere</th>
<th>府県番号</th>
<th>会場番号</th>
<th>組番号</th>
<th>出席簿番号</th>
<th>結果</th>
<th>平均点</th>
<th>府県番号</th>
<th>会場番号</th>
<th>組番号</th>
<th>出席簿番号</th>
<th>結果</th>
<th>平均点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>学力テスト年度</td>
<td>点</td>
<td>点</td>
<td>点</td>
<td>点</td>
<td>点</td>
<td>点</td>
<td>点</td>
<td>点</td>
<td>点</td>
<td>点</td>
<td>点</td>
<td>点</td>
</tr>
</tbody>
</table>

— 37 —
参考までに，41年度，42年度の実施要項から「能研テスト」に関する部分を抜粋してみる。
と，41年度は「大学が追跡調査研究等をする場合の便宜のため，能研テストの記録の備に，能研テストを受験した生徒について受験年度，受験番号，テスト種類を記入すること」，42年度は41年度に加えて選抜方法の一つとして「大学の意向により，能研テストの結果の一部もしくは全部を調査書，大学が実施する学力検査等の資料を補うために利用すること，またはこのテストの一部もしくは全部をもって大学が実施する学力検査の一部もしくは全部にかかって利用することもさしつかえない」と示され現在に至ったものである。

(2) 「能研テスト」の利用大学

能研「学力テスト」の結果を，昭和43年度入学者選抜（これに対応する能研テストは，42年度テストである）の資料として利用した大学の数は，表28～表29のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>区 分</th>
<th>一般入学</th>
<th>推せん入学</th>
<th>大学・短期大学の実数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国立</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>公立</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>私立</td>
<td>-</td>
<td>1</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>6</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>区 分</th>
<th>一般入学</th>
<th>推せん入学</th>
<th>大学・短期大学の実数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国立</td>
<td>1</td>
<td>10</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>公立</td>
<td>1</td>
<td>11</td>
<td>12(8)</td>
</tr>
<tr>
<td>私立</td>
<td>9</td>
<td>11</td>
<td>13(9)</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>10</td>
<td>11</td>
<td>28</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）（ ）の中の数は一般入学と重複する学校数で内数である。

前年度は，能研「学力テスト」を受験した者について，テスト結果を利用してとした大学・短期大学は，一般入学および推せん入学の区分によらず，その合計数でみると延22校，実数18校であった。ただし，うち1校は能研「学力テスト」の受験を当該大学受験の要件として一般入学者選抜に利用している。
表30は、昭和40年度以降の利用状況を示したものである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>区</th>
<th>年度</th>
<th>一般入学</th>
<th>推進入学</th>
<th>計</th>
<th>大学の実数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国・公立</td>
<td>42年度</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>6</td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>私立</td>
<td>20</td>
<td>28(17)</td>
<td>48(17)</td>
<td>31</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>23</td>
<td>31(17)</td>
<td>54(17)</td>
<td>37</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>国・公立</td>
<td>41年度</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>私立</td>
<td>8</td>
<td>12(4)</td>
<td>20(4)</td>
<td>16</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>10</td>
<td>12(4)</td>
<td>22(4)</td>
<td>18</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>国・公立</td>
<td>40年度</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>私立</td>
<td>1</td>
<td>1(1)</td>
<td>2(1)</td>
<td>1</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>2</td>
<td>1(1)</td>
<td>3(1)</td>
<td>2</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

【注1】( )の中の数は表29に準じる。
【注2】年度は「能研テスト」の実施年度を示す。

なお、この表30では、利用大学の数を概括するにとどめ、4年制大学と短期大学の別、あるいは当該大学受験の要件としているかないかの区分は、省略してある。

(3) 「能研テスト」の成績を入手する方法

実施要項の定めと利用大学の増加に対処するため、41年度「能研テスト実施要領」から、新たに、大学の要請に応じて、能研テストの成績を通知する旨を加えるとともに、機械操作による資料の作成、コード番号の編成・整備等、成績提供の具体的な方法を検討した。

すでに述べたように、本年度から、「能研テスト」の成績は、調査書に記入されているので、各大学では出願者の調査書によって、これを知ることができる。しかし、調査書とは別に一定の形式・配列にしたがった一覧表様式で資料を必要としたり、得点の換算値を入手したい場合には、当研究所にその作成方を要請されると好都合である。

次に、「能研テスト」成績一覧表の作成要領ならびにその提供に関する基準を示す。
「能研テスト成績一覧表」作成要領
（大学宛、一覧表送付の文書による）

本一覧表は、すべて貴大学より送付された「能研テスト氏名カード」に記入されている能研テスト受験番号に基づいて作成しました。すなわち、当研究所において能研テスト受験のすべてについて磁気テープに呼びこむ成績のうちから、氏名カードに記入されている受験番号に該当する者の成績をプリントアウトするという機械操作により作成したものです。このため、本一覧表に疑問の点がありましたら氏名カードの受験番号に記入間違いがあるおそれはありますので、当研究所にお問い合わせください。

本一覧表は次の要領により作成いたしました。

① 受験者の配列
　貴大学で記入された学部（学科）番号により、原則として各学部（学科）ごとに別紙にし、受験者は受験番号順に配列しました。

② 受験科目ならびに得点表示
　該当受験者の受験した全科目の成績をそれぞれ該当欄に、各科目とも100点満点により粗点で表示しました。

③ 氏名
　機械処理の関係で、かな文字で10字以内にとどめられます。能研テスト受験の際、氏名を数字で組み合わせにより表示させることにしたため、表示のしかたを誤った者は、正しいかな文字で表示されていない場合もあります注意ください。

④ 会場番号
　テスト会場となった学校番号を用いました。したがって、統合などにより他の学校で受験した者については在学する高等学校の番号でなく受験したテスト会場校の学校番号となっております。

| 31 基 準 表 |

<table>
<thead>
<tr>
<th>種類と様式</th>
<th>入手の手続きと方法</th>
<th>入手を希望する月日</th>
<th>手数料（実費）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>A</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
| 大学へ入学願書を提出した者の能研「学力テスト」
成績を、当該大学の受験番号順に記載したもの。
（様式Ⅰ） | 成績一覧表を作成に用いる「能研テスト氏名カード」を能研本部に
請求する（期限毎年8月末日まで） | 成績一覧表の送付を
求める場合には、成績
一覧表の入手希望日
に、つぎの日数を見込む
で「能研テスト氏名
カード」を能研本部に
送付することがとる。
○ 能研本部における
処理に要する日数2
日程度
○ 郵送要する日数 | 1名につき 30円 |

（1）「能研テスト氏名
カード」は、成績一覧表の受験番号順に記載された者
の2倍までは無料とし、2倍を超える分については、1枚につき1円の実費を要とする。

（2）手数料（上記カード代含む）は、成績一覧表入件後、能研本部の請求により15口以内に支払うこ
と。

（注）基準表は沿の一部を抜粋したものである。
詳しくは「能研テスト」報告書第3冊を参照されたい。
2 その他の利用状況

(1) 国費・自費沖縄学生

国費・自費沖縄学生選考に、「学力テスト」ならびに「進学適性能力テスト」が、40年度、41年度にひき続き利用された。

(2) 私費外国人留学生

私費外国人留学生は、亜細亜大学ならびに国際学友会日本語学校に在学し、日本語を勉学中の学生である。文部省では、これらの留学生を各国立大学へ入学推奨のため、例年、文部省留学生課が統一試験を行なっていた。この統一試験が前年度にひき続き、能研「学力テスト」をもって代行された。

＜備考＞ 日本語芸術会の行なう大学特別奨学金学生選考のための統一試験に、「進学適性能力テスト」の問題が利用された。

同会は、昭和38年度から41年度まで、4年間にわたる調査研究を行ない採用を決定したものである。この間の経緯ならびに調査結果は、「日本語芸術会研究紀要別冊資料 No.1」に、その詳細が述べられている。

表 32 国費・自費沖縄学生等受験者数

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>学力テスト</th>
<th>進学テスト</th>
<th>学力テスト科目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国費・自費沖縄学生</td>
<td></td>
<td></td>
<td>数学甲または乙 その他科目は共通</td>
</tr>
<tr>
<td>A</td>
<td>2,842</td>
<td>3,648</td>
<td>数学乙</td>
</tr>
<tr>
<td>B</td>
<td>1,402</td>
<td>...</td>
<td>国語 II、社会 II 科目、</td>
</tr>
<tr>
<td>C</td>
<td>1,364</td>
<td>...</td>
<td>理科 II 科目、英語 B</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>76</td>
<td>...</td>
<td>数学 I</td>
</tr>
<tr>
<td>私費外国人留学生</td>
<td></td>
<td></td>
<td>世界史、数学乙</td>
</tr>
<tr>
<td>文科</td>
<td>136</td>
<td>...</td>
<td>理科 II 科目（地学を除く）、数学甲</td>
</tr>
<tr>
<td>理科</td>
<td>37</td>
<td>...</td>
<td>外国語は共通 1 科目（英語 B、フランス語から）</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>2,978</td>
<td>3,648</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
【付表】 各テストの課程別・学科別受験者数

定時制課程在学者は相当学年に算入した。

### 付表 1—1 学力テスト 2年（第2学年在学者）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>全日</th>
<th>定時</th>
<th>通信</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>普通</td>
<td>79,454</td>
<td>50</td>
<td>7</td>
<td>79,511</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>135</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td>137</td>
</tr>
<tr>
<td>水産</td>
<td>3</td>
<td></td>
<td></td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>913</td>
<td>14</td>
<td></td>
<td>927</td>
</tr>
<tr>
<td>商業</td>
<td>1,697</td>
<td>4</td>
<td></td>
<td>1,701</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>242</td>
<td></td>
<td></td>
<td>242</td>
</tr>
<tr>
<td>その他の</td>
<td>122</td>
<td></td>
<td></td>
<td>122</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>82,566</td>
<td>70</td>
<td>7</td>
<td>82,643</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 付表 1—2 学力テスト 3年（第3学年在学者）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>全日</th>
<th>定時</th>
<th>通信</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>普通</td>
<td>67,884</td>
<td>247</td>
<td>31</td>
<td>68,162</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>324</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td>326</td>
</tr>
<tr>
<td>水産</td>
<td>14</td>
<td></td>
<td></td>
<td>14</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>2,411</td>
<td>37</td>
<td></td>
<td>2,448</td>
</tr>
<tr>
<td>商業</td>
<td>3,118</td>
<td>4</td>
<td></td>
<td>3,122</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>584</td>
<td></td>
<td></td>
<td>584</td>
</tr>
<tr>
<td>その他の</td>
<td>119</td>
<td></td>
<td></td>
<td>119</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>74,454</td>
<td>290</td>
<td>31</td>
<td>74,775</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 付表 1—3 学力テスト 3年（卒業者）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>全日</th>
<th>定時</th>
<th>通信</th>
<th>大検</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>普通</td>
<td>2,254</td>
<td>8</td>
<td>1</td>
<td></td>
<td>2,263</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>6</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>水産</td>
<td>6</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>58</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
<td>60</td>
</tr>
<tr>
<td>商業</td>
<td>19</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>19</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>その他の</td>
<td>5</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>2,348</td>
<td>10</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>2,361</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 付表 2—1 進路テスト（第2学年在学者）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>全日</th>
<th>定時</th>
<th>通信</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>普通</td>
<td>138,454</td>
<td>179</td>
<td></td>
<td>138,633</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>325</td>
<td>4</td>
<td></td>
<td>329</td>
</tr>
<tr>
<td>水産</td>
<td>9</td>
<td></td>
<td></td>
<td>9</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>1,387</td>
<td>25</td>
<td></td>
<td>1,412</td>
</tr>
<tr>
<td>商業</td>
<td>2,298</td>
<td>24</td>
<td></td>
<td>2,317</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>1,010</td>
<td></td>
<td></td>
<td>1,010</td>
</tr>
<tr>
<td>その他の</td>
<td>219</td>
<td></td>
<td></td>
<td>219</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>143,697</td>
<td>232</td>
<td></td>
<td>143,929</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 付表 2—2 進路テスト（第3学年在学者）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>全日</th>
<th>定時</th>
<th>通信</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>普通</td>
<td>38,065</td>
<td>158</td>
<td>8</td>
<td>38,231</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>483</td>
<td>1</td>
<td></td>
<td>484</td>
</tr>
<tr>
<td>水産</td>
<td>15</td>
<td></td>
<td></td>
<td>15</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>1,476</td>
<td>80</td>
<td></td>
<td>1,556</td>
</tr>
<tr>
<td>商業</td>
<td>2,142</td>
<td>20</td>
<td></td>
<td>2,162</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>436</td>
<td></td>
<td></td>
<td>436</td>
</tr>
<tr>
<td>その他の</td>
<td>32</td>
<td></td>
<td></td>
<td>32</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>42,649</td>
<td>259</td>
<td>8</td>
<td>42,916</td>
</tr>
</tbody>
</table>
付表 2-3 進路テスト（卒業者）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>全日</th>
<th>定時</th>
<th>通信</th>
<th>大検</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>普通</td>
<td>1,281</td>
<td>2</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>1,283</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>4</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>水産</td>
<td>3</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>29</td>
<td>3</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>32</td>
</tr>
<tr>
<td>商業</td>
<td>11</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>11</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>1</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>4</td>
</tr>
</tbody>
</table>

計 | 1,329 | 5 | — | 4 | 1,338 |

付表 3-1 職適テスト（第1学年在学者）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>全日</th>
<th>定時</th>
<th>通信</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>普通</td>
<td>49,408</td>
<td>566</td>
<td>1</td>
<td>49,975</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>2,865</td>
<td>103</td>
<td>—</td>
<td>2,968</td>
</tr>
<tr>
<td>水産</td>
<td>34</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>34</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>6,109</td>
<td>10</td>
<td>—</td>
<td>6,119</td>
</tr>
<tr>
<td>商業</td>
<td>14,354</td>
<td>109</td>
<td>—</td>
<td>14,463</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>4,514</td>
<td>14</td>
<td>—</td>
<td>4,528</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>393</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>393</td>
</tr>
</tbody>
</table>

計 | 77,677 | 802 | 1 | 78,480 |

付表 3-2 職適テスト（第2学年在学者）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>全日</th>
<th>定時</th>
<th>通信</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>普通</td>
<td>36,865</td>
<td>285</td>
<td>—</td>
<td>37,150</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>5,678</td>
<td>58</td>
<td>—</td>
<td>5,736</td>
</tr>
<tr>
<td>水産</td>
<td>282</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>282</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>11,831</td>
<td>102</td>
<td>—</td>
<td>11,933</td>
</tr>
<tr>
<td>商業</td>
<td>20,070</td>
<td>19</td>
<td>—</td>
<td>20,089</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>7,097</td>
<td>24</td>
<td>—</td>
<td>7,121</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>284</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>284</td>
</tr>
</tbody>
</table>

計 | 82,107 | 488 | — | 82,595 |

付表 3-3 職適テスト（第3学年在学者・卒業者）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>全日</th>
<th>定時</th>
<th>通信</th>
<th>大検</th>
<th>計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>普通</td>
<td>3,154</td>
<td>164</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>3,318</td>
</tr>
<tr>
<td>農業</td>
<td>702</td>
<td>13</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>715</td>
</tr>
<tr>
<td>水産</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
</tr>
<tr>
<td>工業</td>
<td>269</td>
<td>10</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>279</td>
</tr>
<tr>
<td>商業</td>
<td>817</td>
<td>74</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>891</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭</td>
<td>507</td>
<td>10</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>517</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>36</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>—</td>
<td>36</td>
</tr>
</tbody>
</table>

計 | 5,485 | 271 | — | — | 5,756 |